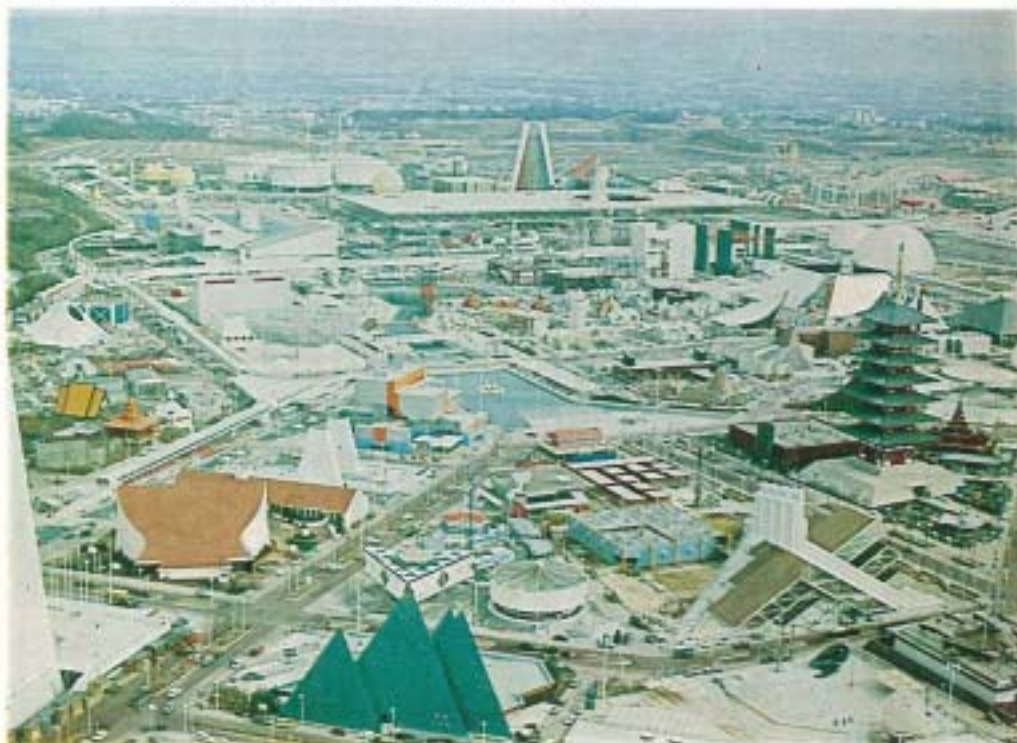


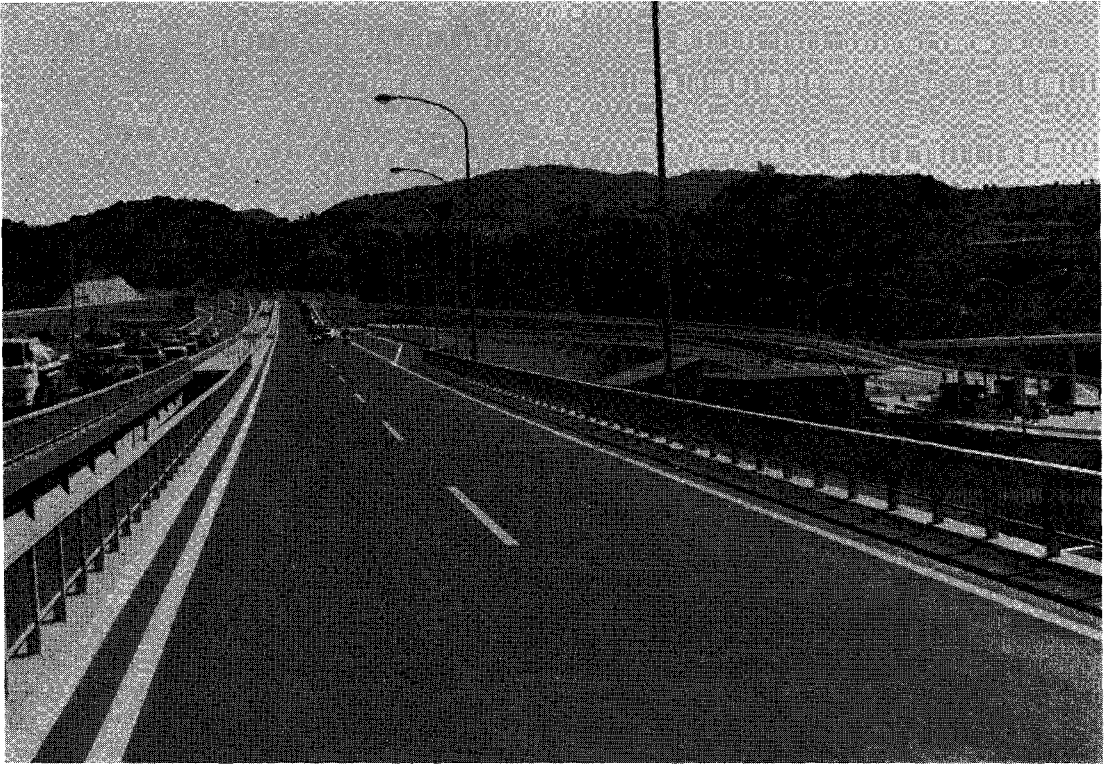


# EXPO'70 開催さる——

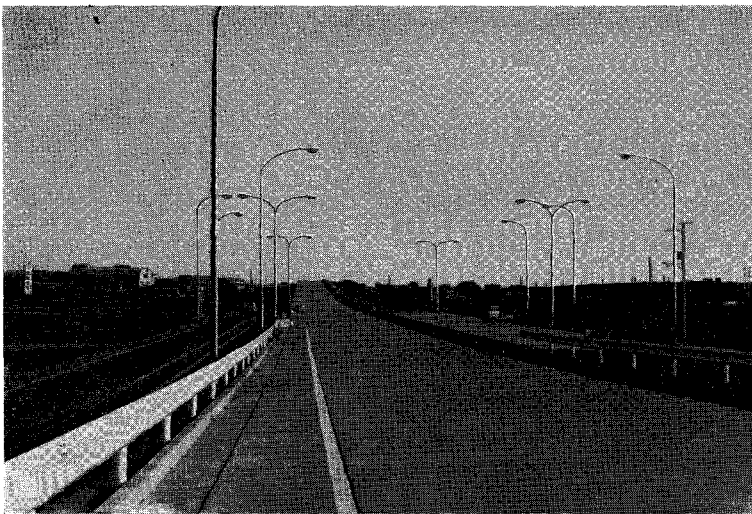
人類の進歩と調和——Progress and Harmony for Mankind をメインテーマとする日本万国博覧会が大阪市の中心から北東へ約 15 km ほど離れた標高 30 ~ 70 m の千里丘陵の特設会場で 9 月 15 日から 9 月 13 日までの間開催されるはこびとなった。約 330 万 m<sup>2</sup> の敷地に総額 813 億円余の資金が投入された会場は東洋最初の万博にわいている。



## 加古川バイパス・第2神明道路開通



2



### 写真説明

1. 第2神明道路を走るパレードの一行
2. 完成した加古川バイパス

日本万国博覧会によって誘発される交通をさばく目的もあわせもつ加古川バイパスと第2神明道路が昭和45年3月完成した。この道路の開通により、高砂市から加古川市、明石市、神戸市を経て、途中阪神高速道路神戸1号線を利用すれば西宮市までの区間を自動車専用道路で直結することができることとなった。今般の開通区間長は加古川バイパス12.5 km(建設省施工)、第2神明道路24.25 km(日本道路公団施工)である。本文ニュース欄参照。

写真提供・1. 日本道路公団  
2. 建設省道路局

## 欧文論文集 (TRANSACTIONS OF JSCE) 予約購読のご案内

土木学会では論文集の名称を論文報告集と改め内容の充実、査読方法のじん速化および受付から掲載までの期間の短縮等につとめる一方、従来の欧文要旨を発展的に解消し欧文論文集の刊行についても検討を行なって参りました。今回下記のような内容で欧文論文集を年2回刊行することになりましたので、ご希望の方は下記申込書により至急お申込み下さい。なお、本書は部数に限りがありますので予約を建前としますので、事前に予約いただかないと入手できないことがありますのであらかじめご了承下さい。

### 記

- 内 容** : 論文報告集に掲載した論文を対象とし、論文報告集に発表後の討議や批評をとり入れさらに検討を行なってとりまとめたフルペーパー(10~20編)および欧文要旨
- 体 裁** : B5判本文9ポ一段組、活版印刷 150 ページ程度 (Vol. 1, Part 1 は 180 ページ)
- 刊行時期** : 45 年度より 10 月および 3 月 (44 年度は 45 年 4 月および 6 月)

|              |          |              |          |
|--------------|----------|--------------|----------|
| 44 年度分       |          | 45 年度分       |          |
| Vol. 1, 1969 |          | Vol. 2, 1970 |          |
| Part 1       | Part 2   | Part 1       | Part 2   |
| 45 年 4 月     | 45 年 6 月 | 45 年 10 月    | 46 年 3 月 |
| 2,500 円      |          | 2,500 円      |          |

**予約特価** : 年間 国内 2,500 円 (送料共)  
 国外 US 10ドル ( " )

注: 今回はなるべく 44 年度, 45 年度分を一緒にご送金下さい。

-----き り と り 線 -----

### 欧文論文集 (Transactions of JSCE) 予約購読申込書

(昭和 年 月 申込)

|                      |                             |      |        |
|----------------------|-----------------------------|------|--------|
| 氏 名                  | 名誉会員<br>正会員<br>特別会員<br>学生会員 |      | 印      |
| 勤務先                  |                             | 役職名  |        |
| 勤務先地                 |                             | 電 話  |        |
| 現住所                  |                             | 電 話  |        |
| 購読期間                 | 年度から 年度まで 中止連絡まで            | 部 数  |        |
| 送本先                  | 勤務先 自宅                      | 事務連絡 | 勤務先 自宅 |
| 購読料金<br>払込方法<br>期 日  | 昭和 年 月 日現金書留, 振替, かわせ, 持参   |      |        |
| その他,<br>学会への<br>通信事項 |                             |      |        |

---

## 内容・主旨紹介

今月号の登録記事の要旨を記してあります。切り取ってパンチカードにはりつけて整理して下さい。

---

### 北上川水系の電算システムによる洪水制御／木谷 正・佐々木賢一・斎藤正勝

土木学会誌第 55 巻第 4 号, pp. 2~11, 昭和 45 年 4 月 (April 1970)

本文は、建設省東北地建が中心となって開発してきた標題の内容および運用実績報告である。本システムは、北上川水系の洪水予報と多目的 5 大ダム群の統合管理を目的として電子計算システム化をすすめたものであり、経過報告として貴重である。

---

### 上高地への道——一般国道 158 号線ダム関連改良工事報告——／小川 一・太田勝巳

土木学会誌第 55 巻第 4 号, pp. 12~22, 昭和 45 年 4 月 (April 1970)

梓川電源開発に関連して改良工事に着手した一般国道 158 号線の工事報告である本文は、観光地を背形にもつ山岳道路の改良工事報告としてユニークである。昭和 44 年 3 月に供用を開始した本道路は、ほとんどがトンネルを主体とする工事が要求される急峻な地形に建設されたもので、1968 年の全建賞を受賞した工事である。

---

### 前川渡大橋上部工の概要／榊原 彰・小山一郎・御牧陽一・鎌田 栄・下石坂克典・荒井利男

土木学会誌第 55 巻第 4 号, pp. 23~28, 昭和 45 年 4 月 (April 1970)

本橋は、東京電力の梓川水系電源開発による道路付替え工事のために架設された 3 径間連続中落式ローゼ橋 (21m + 150 + 26) である。わが国では、初めての中落式形式を採用して、アーチリブと補剛桁を剛結することによって、応力、振動などの改善をつとめたことが報告してある。内容は、設計、架設、載荷試験の概要について、図面を多く用いて述べている。

---

### 東京の地盤沈下／竹崎忠雄

土木学会誌第 55 巻第 4 号, pp. 29~35, 昭和 45 年 4 月 (April 1970)

地盤沈下が公害問題としても良く知られ、それが過剰揚水による地下水位の低下によるものであるということも、いろいろな事実から認められている。東京の沖積低地では、地盤沈下は 1949 年頃から産業の復興とともに、急速に発展してきた。しかし 1961 年以降は、地下水の採取規制などの法的処置によって減少し、さらに停止するかにみえたが、1967 年の後半から再び急激に拡大してきた。本文では、これら地盤沈下の調査方法と測定結果について述べ、地盤沈下が表層の軟弱な沖積層のみならず、その下位にある洪積層にも波及している現状を説明し、あわせて今後の地盤沈下調査の方向を示している。

---

### 数値制御を用いた橋梁の原寸製作——NC 原寸法の手法／安芸佳夫・福井康二

土木学会誌第 55 巻第 4 号, pp. 36~40, 昭和 45 年 4 月 (April 1970)

現在行なわれている橋梁製作時の実物大の原寸図の作成を、ある種の縮尺原寸をもって電子計算機と自動図化機に代行させる試みの報告が本文である。本方法は能率的かつ正確さにおいて、工場製作に多く利用できると報告されている。

---

### 土木施工管理技士制度発足・土木施工管理技術検定の概要／長尾 満

土木学会誌第 55 巻第 4 号, pp. 41~44, 昭和 45 年 4 月 (April 1970)

建設省が建設業法の規定に基づき昭和 44 年度から発足させた土木施工管理技術検定制度についての概要を記したのが本文である。本制度の目的、効果、検定の概要、他の資格との関係などにつき簡明に記述されている。

---

### 土質試験法に関する日本工業規格改訂の要点／三木五三郎

土木学会誌第 55 巻第 4 号, pp. 45~49, 昭和 45 年 4 月 (April 1970)

日本工業規格 (JIS) のうち土質試験法関係の規格は 19 種ほどあるが、そのうち戦後いちはやく制定された 15 種について現在改訂がすすめられている。本文は、その改訂の経過と改訂の要点を述べ、今後の問題についても簡単にふれている。

---



最新刊

## 土木計画学講習会テキスト 2

B5判・152頁 1200円  
(郵送料 70円)

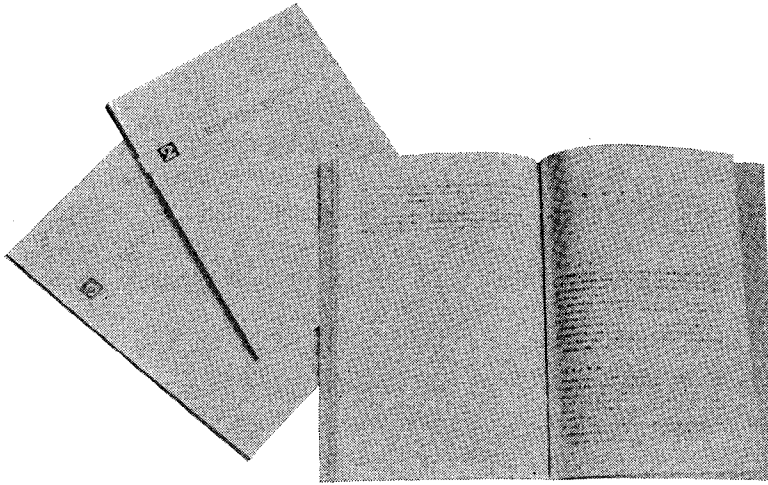
調査計画法—特に標本調査法について—(河上省吾) 情報の抽出と予測(中村慶一) 土木計画のための線形計画法(吉川和広) バイパス計画の実際例—国道3号線福岡バイパスの場合—(稲見俊明) 水資源計画の手法(佐々木才朗)

## 土木計画学講習会テキスト 1

B5判・122頁 800円  
(郵送料 70円)

土木計画問題のシステム化—ネットワークシステムを例にとって(吉川和広) 調査方法および資料整理(高橋裕) 道路計画の基礎資料(山根孟) 将来予測の一般論(加藤晃) 港湾の整備計画(高田陸朗) 都市用水需要の将来予測(首藤和正)

土木計画学研究委員会では現在までに3回のシンポジウムを開催し多くの成果をあげております。下記はそれぞれの資料でまだ多少の残部がありますのでお申込みください。



### ① 土木計画学シンポジウム

B5判・134頁 700円  
(郵送料 70円)

### ② 土木計画学シンポジウム

B5判・120頁 700円  
(郵送料 70円)

### ③ 土木計画学シンポジウム

B5判・132頁 700円  
(郵送料 70円)

郵便番号 160

東京都新宿区四谷1丁目

電話 351-4131(直)

振替 東京16828



土木学会

---

## トンネル標準示方書改訂に際して／坂本貞雄

土木学会誌第 55 巻第 4 号, pp. 50~54, 昭和 45 年 4 月 (April 1970)

昭和 36 年に土木学会内に設けられたトンネル工学委員会は、同 39 年にトンネル標準示方書を制定し、通常の山岳トンネルについての一般の標準を示してきた。その後、同委員会は研究を重ね新しいデータに基づく改訂に着手、昭和 44 年 11 月改訂版を送り出した。本文は、改訂の経過とその主要内容を解説したものである。

---

## シールド工法指針発刊に際して／西嶋国造

土木学会誌第 55 巻第 4 号, pp. 55~57, 昭和 45 年 4 月 (April 1970)

都市土木の急激な増加などの社会状況の変化に伴い、シールド工法は最近大きな注目を集めている。そこで、土木学会トンネル工学委員会は昭和 40 年 9 月に同委員会にシールド工法小委員会を設け、種々の調査研究を行ってきた。今般その成果として刊行したものが本書で、守らねばならないことを中心に指針としてまとめ、示方書制定の足がかりとした。

---

## モランディの橋を訪ねて—技術から芸術へ—／関 淳

土木学会誌第 55 巻第 4 号, pp. 58~61, 昭和 45 年 4 月 (April 1970)

筆者は先に「マイヤールの橋を訪ねて」と題する欧州便りを学会誌に寄せたが、本文はその続編ともいえる欧州便りである。PC時代の巨匠と呼ばれるモランディの作品群を訪ね、その成果にふれている。

---

## 転換期に立つ電源開発／大橋康次

土木学会誌第 55 巻第 4 号, pp. 62~66, 昭和 45 年 4 月 (April 1970)

明治 11 年 3 月 25 日に日本最初のアーク灯がともされてから今日までわが国の電源開発は順調に進められてきたが、今後の見通しという点ではさだかではない。本文は重大な転換期にさしかかっていると考えられる電源開発の今後の諸問題について、筆者の所論を述べたものである。

---

## 河川の平水時・高水時における背水限界の比較・ポアレー公式を使用した場合／

川上謙太郎

土木学会誌第 55 巻第 4 号, pp. 67~69, 昭和 45 年 4 月 (April 1970)

河川を横断して取水ダムをつくり水の流れを堰止めると背水曲線を生ずる。この点に鑑み、筆者はポアレー式をもととして、流量比を計算要素にした限界の比較式をつくり、標題の一般的な傾向を知る計算法を案出して「資料」として報告したのが本文である。

---

## 下水汚泥の処理・処分および利用に関する研究・報告書

建設省よりの委託研究の成果を、建設省の許可をえて限定部数を増刷したもので、内外の下水汚泥の処理処分方法を詳細に解析して貴重なレポートです。

### 記

内 容：1. わが国における汚泥処分の実態／2. 諸外国における汚泥処理・処分／3. 汚泥処分に関する現地調査／4. 総括および今後の方向

体 裁：B判 タイプオフセット印刷 232 ページ

実 費：1,200 円 (〒 100 円)

申 込 先：160 東京都新宿区四谷 1 丁目 社団法人土木学会

申込方法：実費と送料を添え申込んで下さい。

---

定評ある  
土木学会  
のトンネ  
ル工学書

昭和44年改版 土木学会編

新刊

トンネル標準示方書解説

A 5判・160ページ 800円・会員特価700円(〒70)

昭和44年制定 土木学会編

新刊

シールド工法指針

A 5判・152ページ 800円・会員特価700円(〒70)

トンネル工学シリーズ 1 第1回トンネル工学シンポジウム

B5判・106ページ

400円・会員特価 300円

(〒50)

トンネル用鋼アーチ支保工の設計施工について/長大トンネルの地質/トンネル工事における災害の実情について/高熱トンネルの施工について/名古屋  
屋市高速度鉄道のシールド工法について/わが国トンネル施工のすう勢と問  
題点について

トンネル工学シリーズ 2 最近のトンネル工学 — 工事の実例と話題 —  
<第2回トンネル工学シンポジウム>

B5判・136ページ

500円・会員特価 400円

(〒50)

トンネル標準示方書制定について/青函トンネルについて/国鉄新丹那トン  
ネルについて/羽田海底トンネルについて/富士川用水導水トンネル工事に  
ついて/AN-FO爆剤とその発破法

トンネル工学シリーズ 3 第3回トンネル工学シンポジウム

B5判・146ページ

1000円・会員特価 800円

(〒70)

トンネル土圧/トンネル土圧の測定方法と現況/トンネル用鋼アーチ支保工  
の強度について/トンネル掘削における余掘りの実態について/セグメント  
の設計について/栗子トンネルの工事計画と施工実績について/国鉄親不知  
トンネルの施工実績について/青函トンネルにおけるウォールマイヤー式  
トンネル掘削機の掘削試験について/大阪地下鉄線複線型と単線型シールドの  
実施例と問題点/シールド工法による駅部の施工計画について/わが国にお  
ける中小口径シールド工事の現況について

トンネル工学シリーズ 4 わが国シールド工法の実施例・第1集

B5判・338ページ

2200円・会員特価1800円

(〒110)

第I部 工事概要/第II部 設計および実績/第III部 セグメント/第IV部  
シールドおよび付属機械/第V部 工事用機械その他/第VI部 主な図表類  
/付録 鉄道および道路・下水道・上水道・電力および通信・地下道その他  
に分類 158件を収録

トンネル工学シリーズ 5 第4回トンネル工学シンポジウム

B5判・268ページ

1800円・会員特価1600円

(〒100)

ソ連の地下鉄/アメリカのトンネル工事を視察して/アメリカにおける山岳  
トンネル工法/アメリカにおけるトンネル掘さく機/アメリカにおける都市  
トンネル/アメリカにおけるコンサルタント業務/アメリカにおける請負工  
事の諸事情について/アメリカのトンネル施工に関する新技術/欧州のトン  
ネル工事を視察して/欧州におけるトンネル請負工事の諸事情について/欧  
州における山岳トンネル工法/欧州におけるトンネル掘進機について/欧州  
のシールド工事/欧州における地下鉄工事/欧州における沈埋工事

トンネル工学シリーズ 6 第5回トンネル工学シンポジウム<最新刊>

B5判・124ページ

1000円・会員特価 900円

(〒100)

六甲トンネルの碎破帯突破について/トンネルの掘さくに伴う地表沈下測定  
例について/牧の原地すべり地区のトンネル施工について/紅葉山線・新登  
川トンネルの蛇紋岩区間の施工法と膨張土圧の測定結果について/京葉線・  
多摩川河底沈埋トンネルについて/大阪地下鉄の沈埋管工事一堂島川と道頓掘  
川の施工例について/近鉄難波線の大型機械化シールドの施工例について

# 会 告

社団法人 土 木 学 会

| 行事案内  | 月 日  | 行 事 名                | 場 所  | 備 考   |
|-------|--|----------------------|------|---|
| 本 部   | 5月29日(金)   | 第56回通常総会             | 東 京  | 4号会告2頁参照  |
|       | 4月18日(土)   | 海洋開発シンポジウム           | 土木学会 | 4号会告4 "   |
|       | 7月24日(金)<br>25日(土)   | 第3回土木計画学シンポジウム       | 同    | 4号会告8 "   |
|       | 7月31日(金)<br>8月1日(土)  |                      | 札幌市  | 4号会告8 "   |
|       | 11月6日(金)<br>～8日(日)   | 昭和45年度全国大会           | 大阪市  | 4号会告3 "   |
|       | 北海道支部  | 4月30日(木)             | 支部総会 | 札幌市   |
| 東北支部  | 5月12日(火)   | 支部総会                 | 仙台市  | 4号会告15 "  |
| 関東支部  | 4月28日(火)   | 支部総会                 | 東 京  | 4号会告15 "  |
| 中部支部  | 4月23日(木)   | 支部総会                 | 富山市  | 4号会告15 "  |
| 関西支部  | 4月24日(金)   | 講習会「物理探査の土木工事への応用」   | 大阪市  | 2号会告8 "   |
|       | 4月27日(月)   | 「工事管理の問題点を探る」研究会     | 同    | 3号会告8 "   |
|       | 5月10日(日)   | 支部年次学術講演会            | 東大阪市 | 4号会告16 "  |
|       | 5月20日(水)   | 支部総会                 | 大阪市  | 4号会告20 "  |
| 中四支部  | 7月下旬   | 支部総会・学術講演会           | 鳥取市  | 4号会告21 "  |
|       | 4月22日(水)<br>～23日(木)  | 講習会・見学会              | 広島市  | 4号会告21 "  |
| そ の 他 | 5月8日(金)<br>～9日(土)  | 建造物の耐風性に関する第1回シンポジウム | 東 京  | 3号会告9 "   |
|       | 5月19日(火)<br>～20日(水)  | 第1回安全工学国内シンポジウム      | 同    | 1号会告15 "  |
|       | 6月4日(木)<br>～5日(金)  | 第8回接着研究発表会           | 大阪市  | 4号会告13 "  |
|       | 6月6日(土)  | 表面と接着討論会             | 同    | 4号会告14 "  |
| お知らせ  | <ul style="list-style-type: none"> <li>■土木学会論文報告集購読料の改正について</li> <li>■論文報告集予約申込みについて</li> <li>■第4回国土開発映画コンクール作品募集</li> <li>■昭和45年度全国大会・第25回年次学術講演会実施要領</li> <li>■土木学会論文報告集へのご投稿について</li> <li>■映画試写会中止について</li> <li>■Coastal Engineering in Japan, 1970 掲載原稿の公募について</li> <li>■第17回海岸工学講演会講演募集</li> <li>■第6回トンネル工学に関するシンポジウム開催のご案内</li> <li>■建造物の耐風性に関する第1回シンポジウム開催ならびに参加募集</li> <li>■第14回材料研究連合講演会講演募集</li> <li>■第17回橋梁・構造工学研究発表会論文募集</li> <li>■第3回 日本地震工学シンポジウム参加募集</li> <li>■土木図書館講堂使用料の改正について</li> </ul> |                      |      | 3号会告2 "<br>4号会告1 "<br>4号会告2 "<br>4号会告3 "<br>4号会告5 "<br>4号会告7 "<br>4号会告7 "<br>4号会告7 "<br>4号会告9 "<br>4号会告10 "<br>4号会告11 "<br>4号会告12 "<br>4号会告13 "<br>4号会告22 " |

## 昭和45年度論文報告集予約申込みについて

◀ 申込締切 4月30日 ▶

昭和45年度論文報告集(昭和45年4月号～46年3月号)購読ご希望の方は、年間購読料2000円(外地の場合は12ドル)を添えて、4月30日までにお申込み下さい。従来購読されている方もお忘れなくお申込み下さい。期限後のお申込みは翌年度分となりますからご注意ください。



土木学会論文報告集投稿要項

1. 投稿者：本会会員、ただし連名の場合は一人以上が会員であること。
  2. 原稿提出期日：随時
  3. 原稿の書き方について
    - 3-1 土木学会論文報告集への投稿に際しては必ず和文・欧文題目・会員区分・氏名・学位・勤務先・役職名・連絡先を明記して下さい。
    - 3-2 投稿原稿は和文・欧文（当分の間英・独・仏のいずれかに限る）のどちらでも結構です。
    - 3-3 投稿原稿は原則として、土木学会原稿用紙（横書 25 字×14 行）を使用して下さい。ただし欧文の場合は A 4 判タイプ用紙にダブルスペースでタイプ打ちして下さい（刷上り 1 ページは和文の場合は 6 枚、欧文の場合は約 600 ワード）。
    - 3-4 提出部数は正原稿（図・写真とも）および複写 3 通（図・表・写真とも）とします。
    - 3-5 図・表について：正図はそのまま製版できるよう白か透明の紙に縮尺を考慮して必ずスミ入れして、著者の責任において完全な図面（線図・文字・符号などすべてスミ入れする）を提出して下さい。表は原則として活字で組みますので原稿のままです。ただし、表の中に図が入る場合は図面のミスミ入れして下さい。
    - 3-6 写真について：写真は原則として手札程度に焼付けしたものを提出して下さい。
  4. 論文報告の長さ：論文報告 1 編の長さは原則として図表を含み刷上り 12 ページ以内とします。
  5. 和文要旨について
    - 5-1 和文要旨は学会誌論文紹介欄に掲載しますのでそれだけで論文報告の内容の大略が把握できるように記述して 4 部提出して下さい。
    - 5-2 和文要旨は図・表・写真を含み刷上り 1 ページ以内として本文のページ数には含みません。なお、図・表・写真に本文のものを使用する場合はその旨明記して下さい（重複して提出される必要はありません）。
  6. 討議について
    - 6-1 討議は土木学会論文報告集に掲載されたものを対象とします。
    - 6-2 討議原稿の受け付けは論文報告集掲載後 6 ヶ月以内とします。
    - 6-3 討議原稿の書き方については 3. に準じて下さい。ただし、原稿（図・表・写真があればそれも含む）の複写は 1 部とします。
  7. 査読について：土木学会論文集編集委員会では、日本全国の土木工学の各分野における専門家に査読を依頼します。投稿原稿は原則として 3 名の専門家に査読を依頼し、その結論によって掲載の可否を決定します。専門分野は大別してつぎのごとくとなっておりますので査読部会を明記して下さい。
    - 第 1 部会：応用力学・構造力学・構造工学・橋梁一般・鋼橋等
    - 第 2 部会：水理学・水文学・河川工学・港湾工学・海岸工学・発電水力・衛生工学等
    - 第 3 部会：土質力学・基礎工学・岩盤力学等
    - 第 4 部会：道路工学・鉄道工学・交通計画・都市計画・国土計画・測量等
    - 第 5 部会：土木材料・土木施工法・コンクリートおよび鉄筋コンクリート工学等
 なお、内容において部会相互に関連するものはそれぞれ内容に関連する部会で取扱うこととします。
  8. 抜刷について：原稿には原稿料は支払いませんが、登載論文の抜刷は著者に 50 部まで差し上げます。それ以上希望の方は実費をいただきますからあらかじめ希望部数を原稿にお書き入れ下さい。
  9. 著作権：論文報告集掲載論文の著作権は著作者に属し本会は編集出版権をもつものとします。
- 付 記
- ① 以上の点に関し疑問の点がありましたら、土木学会論文報告集編集係にお問合せ下さい。
  - ② 論文報告の校正は原則として 1 回だけ著者にみていただくこととなりますが、時期・方法などはそのつど著者に直接ご連絡いたします。
  - ③ この投稿要項は昭和 45 年 4 月 1 日以降受付原稿に適用します。なお、同日以後は上記の条項を満たしていない新規原稿は受けられなくなりますのでご諒承下さい。

## 土木学会昭和 45 年度全国大会・第 25 回年次学術講演会実施要領

土木学会第 25 回年次学術講演会は、昭和 45 年度全国大会学術講演会として、昭和 45 年 11 月 6 日（金）、7 日（土）、8 日（日）の 3 日間、大阪市内において開催することになりました。

今回は諸般の情勢から、会場は市街地ビルの会議室を使用します。会場が下記のように 2 会場に分れ、ご不便な点もあることと存じますが、ご了承願います。

講演要領その他は下記のように決まりましたが、従来と異なった点は、概要集作製は学会本部担当、プログラム編成は支部担当となりましたので、講演申込先は関西支部、講演概要の原稿提出先は学会本部と変更しております。講演希望者は期限までに講演申込み（期限 6 月 10 日関西支部へ必着）ならびに講演概要の原稿提出（期限 7 月 31 日土木学会本部へ必着）をして下さい。

### 記

1. 実施期日：昭和 45 年 11 月 6 日（金）  
7 日（土）  
8 日（日）
2. 実施場所：日本生命中之島研修所（大阪市北区常安町 29）  
大阪科学技術センター（大阪市西区靱 1 丁目 118）

### 3. 講演要領：

- ① 講演時間：講演時間は 1 題あたり約 15 分（質疑討論・交代時間を含む）とします。
- ② 発表方法：研究論文は各部門とも、個人発表または総括報告形式として発表します。  
個人発表は原則として 1 題ごとに質疑討論を行いません。  
総括報告方式では同じ種別の論文数編みをつを、総括報告者がまとめて報告し、その後に各著者への質疑討論を行いません（原則として各著者の発表はいたしません）。
- ③ 方式の決定：個人発表とするか、総括報告形式とするかは、各自の希望を参考に学会で決定し、学会誌 8 月号に掲載します。
- ④ 講演部門：講演部門は、つぎの 5 部門に分けます。

- 第 I 部門：応用力学・構造力学・橋梁など
- 第 II 部門：水理・水文・河川・港湾・海岸・発電水力・衛生など
- 第 III 部門：土質・基礎・土木機械・施工・トンネルなど
- 第 IV 部門：道路・鉄道・都市計画・交通・測量など
- 第 V 部門：土木材料・施工法・コンクリートおよび鉄筋コンクリート工学など

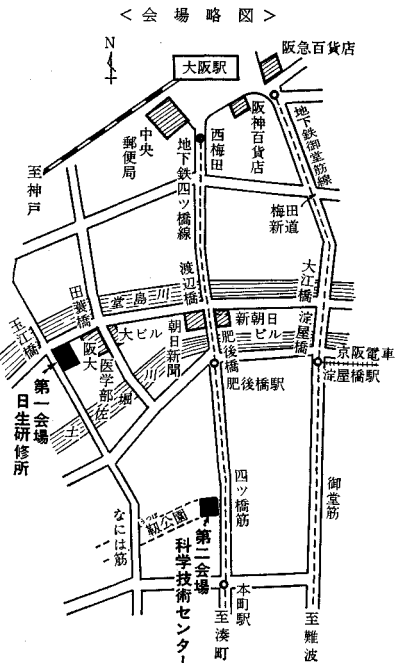
### 4. 講演申込：

- ① 講演者の資格：講演者は個人の土木学会会員に限ります。連名者は、非会員でもさしつかえありません。
- ② 講演内容：原則として未発表のものに限ります。
- ③ 1 人 1 題：全部門を通じて講演者 1 人 1 題に限ります。
- ④ 申込カード：所定の申込カードを使用して下さい。申込カードは各支部に準備してありますから、所属支部へ請求して下さい。
- ⑤ 申込期限：6 月 10 日（水）必着のこと。期限後到着のものは受理できません。
- ⑥ 申込あて先：下記へ直送して下さい。

〒 541 大阪市東区船場中央 2 丁目 2 番地 船場センタービル 4 号館 409 号室 土木学会関西支部内 全国大会講演係

### 5. 講演概要原稿

- ① 概要の目的：講演概要は聴講者に内容を徹底させ、あわせて講演時間を短くし、かつ来聴できない会員に、講演内容を速報するために作成します。



### 交通案内

#### 第 1 会場（日生研修所）

- ・市営バス：国鉄大阪駅前より市バス(53) 船津橋または(特 53) 大阪港行乗車、玉江橋下車
- ・地下鉄：地下鉄四ツ橋線西梅田駅乗車肥後橋駅下車徒歩 10 分

#### 第 2 会場（科学技術センター）

- ・地下鉄：地下鉄四ツ橋線本町駅下車 徒歩 5 分
- 注 第 1 会場～第 2 会場は徒歩 15 分の距離です。

- ③ 原稿1編当りの長さは、刷上り10ページを原則とし（刷上り1ページは約600ワード）、掲載原稿はすべて刷上り1ページあたり1500円の掲載料をいただきます。なお、規定ページを超過した分については1ページ当り2500円負担していただきます。掲載料は本文刊行後請求いたします。
- ④ 校正は著者校正とし、校正の時に原稿および図面を大幅に変更した場合は組替え料（実費）をいただきます。
- ⑤ 著者には本書一冊を差し上げますが、別刷は希望者のみ実費で差し上げます。
- ⑥ 1970年版の予定は下記のとおりです。

○原稿締切：1970年5月末日／○著者校正：1970年9月以降／○刊行予定：1970年末

注：第16回海岸工学講演会の節 Coastal Engineering in Japan に掲載申込みを行なった方も上記要項をご参照のうえ原稿を提出して下さい。

## 第6回トンネル工学に関するシンポジウム（国際シンポジウム）

### 開催のご案内 —Tunnel Symposium '70—

世界的なトンネル工事の増大（急激に進む都市交通機関の地下鉄化および高速道路網や鉄道網の発達ならびに都市中心部の地下街化に基づく）に伴い、各国におけるトンネル工学およびトンネル工事一般に対する関心が高まりつつある一方、各種科学技術の進歩に基づき、トンネル技術の革新も次々と行なわれつつあり、技術的見地のみならず、社会経済的立場からも各国の協力の必要が痛感されて来ています。

すでに OECD（欧州経済協力機構）の事務局はこの世界的な勢に鑑みて各加盟国政府に対して、トンネル工学および施工技術（これに伴う社会経済的計画も含めて）の国際的協力を提唱し昨年来準備をすすめており今年6月ワシントンにおいて政府機関ベースの国際トンネル会議を開催されることになりました。

一方わが国も周知のように山岳国でかつ島嶼国であるための平地にとぼしく今後の経済発展に即応するための各種の交通機関の整備を始め、都市開発その他の各種の建設計画の遂行にあたりトンネル建設にまつこと絶大であり、現在施工中および計画中のトンネル計画は無数といえます。

土木学会はこのように年々増大するトンネル工事の重要性に着目し、昭和37年にトンネル工学委員会を設置して以来、トンネル標準示方書やシールド工法指針の制定を始め数々の委託研究を行なうとともに、昨年までに5回のトンネル工学に関するシンポジウムを開催するなどトンネル技術の改善に努めて来ましたが、このたび万博の日本開催を契機として9月に開催する第6回トンネル工学に関するシンポジウムの規模を拡大して各国専門家の参加を求めてトンネル工学の国際シンポジウムを開催し、各国専門家と情報意見の交換をはかり相互協力の体制を固めトンネル工学一般の発展に資したいと考え昨年来準備をすすめております。

シンポジウムは下記の日程で東京において開催されますが、このシンポジウムには米・独・英・オランダから著名なトンネル工事の経験者が6名参加し、わが国のトンネル専門家とともにそれぞれの専門分野の報告をすることになっており、そのほか数十名の各国のトンネル専門家が参加する予定です。国内からも多数の方々に参加されるようご案内いたします。なお、詳細なプログラム参加方法等についてはおってお知らせします。

1. 日 時：1970年9月14日（月）、15日（火）、16日（水）
2. 会 場：東京文化会館（台東区上野公園）
3. 会 費：7000円
4. 交 歓 会：1970年9月14日（月）夜／会場：パレスホテル／会費：3000円

### 人工軽量骨材コンクリート設計施工指針（案）

内 容：1章 総則／2章 軽量骨材／3章 軽量骨材コンクリートの品質／4章 軽量骨材の取扱い／5章 配合／6章 練りませおよび運搬／7章 コンクリート打ちおよび養生／8章 試験／9章 設計に関する一般事項  
付 録：1 骨材中に含まれる粘土塊量の試験方法／2 軽量粗骨材の浮粒率試験方法／3 構造用軽量細骨材の比重および吸水量試験方法（案）／4 構造用軽量粗骨材の比重および吸水量試験方法（案）

体 裁：B6判 53ページ 定 価：300円 会員特価：250円（〒50）

申 込 先：土木学会 東京都新宿区四谷一丁目

## 土木学会論文報告集へのご投稿について

土木学会論文編集委員会

従来の「論文集」においては、投稿する原稿は土木工学に関する理論、実験などによる研究の報文、または工事の創意ある調査、計画、設計、実施などの報文、研究ノートおよび論文集掲載論文に対する討議とされておりましたが、論文という名称にとらわれて原稿の傾向がやや一方に偏するきらいがみられ、またその数も必ずしも多いとはいえない状態でした。

土木学会論文編集委員会では、論文集の充実、査読の迅速化などについて種々検討しておりますが、昭和44年1月、第161号よりその名称を「論文報告集」と改め、その体裁も一新いたしました。また、昭和44年8月号でお知らせしましたように「欧文論文集」を刊行することとし、投稿要項もその一部を改訂いたしました。

また、査読方法としては、編集委員会外にも査読委員を依頼し、査読の公正、正確を期するとともに、その迅速化についても、種々その方法を検討しております。

このように新たな「論文報告集」として発足するに当たって、従来の投稿要項を改訂することになり、現在「投稿の手引き」を検討作成中ですが、完成までになお日時を必要としますのでここに論文報告集の性格についてお知らせするとともに先にお知らせしました土木学会論文報告集の投稿要項をとりあえず別記のように改訂致します。

**(1) 論文報告集の意義**

土木学会論文報告集は土木工学に関して会員が行なった研究の成果をお互いに交換して、さらに討議を通じて、各自の専門学術技術の進歩と相互の利益に役立ちあう場所と考えることができます。したがって論文報告集で扱われる研究の目的が学会の目的と一致しており、主として土木学会の会員に関心が持たれる題材を扱っているもの、かつ会員相互間に建設的討議をひきおこすようなものがのぞましいといえるであります。

**(2) 論文報告集の内容**

論文報告集に発表される論文は本質的に土木工学に関する計画、調査、設計、施工、維持、管理等についての学術論文と技術論文および学会の各専門委員会の研究報告といたします。従来ともすれば論文集として学術論文の点から権威づけられてきましたが、今回技術論文の報告および学会委員会報告をも積極的に受け入れることにいたしました。なお、従来あった研究ノートの区分は廃止になります。

**(3) 論文として要求される条件**

論文は投稿要項に示してあるように論文としての体裁を整えていることがまず必要です。また質的な条件としてはつぎのような項目のいずれかを具備していることが必要です。すなわち

- 1) とりあげた対象に新しい特色があること
- 2) 用いた手法に新しい特色があること
- 3) まとめ方、結論は多少不十分でも、非常に示唆的で大きな発展性があること
- 4) 今後の実験、設計、工事、調査などにとりいれる十分な価値があること
- 5) 多方面に利用できる新しい成果を提示していること
- 6) 工学上の判断をする上で有用な情報を与えていること
- 7) 考え方や手法の発展の歴史的考察を行ない、将来の問題点の指摘を行なっていること
- 8) 対象とした事柄や用いた手法に新しさはなくても、そこに総合的な成果を示して、工学上有用な資料となりうるものを多く含んでいること

など、であります。

**(4) 討議について**

論文の中に示された研究内容については発表者が読者に対して責任をもつものであり、読者が学術上、技術上の異論をもつ場合には、当然討議によって批判すべきものであります。またこのような批判が建設的な意見を通じて行なわれる時に研究の進歩がなされると考えます。また対象としてユニークであれば当然読者の間に大きな関心をよびおこし専門を同じくするものによって討議がなされるはずであります。このような観点から、今後討議を活発に行きたいと考えますので、編集委員会から会員の方々に討議をお願いすることも計画致しております。

以上のような論文報告集の意義と内容と条件から今後多くの投稿論文と討議を期待いたします。

関西支部行事案内 (郵便番号 537 大阪市東成区中道元町1丁目149番地)  
電話 06-981-2510, 振替口座 大阪 82599 番)

(1) 関西支部年次学術講演会 (昭和 45 年度) ◀ 5 月 10 日 (日) ▶

1. 日 時: 1970 年 5 月 10 日 (日) 9.00~17.00 の予定
2. 場 所: 近畿大学理工学部 電話大阪 (06) 722-1144  
東大阪市小若江 321 近鉄大阪線長瀬駅下車徒歩約 10 分
3. 講演題目および講師: 学会誌 4 月号に掲載します。
4. 講演概要頒布: 論文抄録集 (B5 版, オフセット印刷) をつぎのとおり頒布いたします (ただし 800 部限り, 申込先着順)。  
正会員 200 円, 学生会員 100 円, 非会員 500 円, 送料 100 円  
講演者 (○印) 無料
5. 聴 講: 無料, 来聴歓迎
6. 申込方法: 講演概要希望者は 4 月 18 日 (土) までに勤務先, 連絡先, 会員の種別, 氏名および講演会に出欠を明記 (様式随意) し, 上記講演概要代金および送料 (当日会場で受取り希望者は送料不要) を添えて土木学会関西支部へお申し込み下さい。

(2) 「工事管理の問題点を探る」研究会 ◀ 4 月 27 日 (月) ▶

(第 1 回) 一官公企業体からの提起一

建設工事の大規模化, 複雑化と多量生産化, 技術の高度化と近代化は近年著しいものがあり, これに対処するための一助として当関西支部では昭和 44 年 3 月および 6 月に工程管理に関する講習会を開催いたしました, さらにその近代化を妨げるもの, またより効果的な方法等を認識する必要があり, そのためには, 現実の問題についてあらためて検討し直す立場での一連の研究を行なうことが考えられますので, 第 1 回としてつぎのとおり企画いたしました。今回は提起者からのそれぞれの立場における現況・体制・工程・品質等の問題点に関する一括発言と参加者からの随時発言によるパネル ディスカッション方式といたし, 関係者各位の積極的なご参加をお願い申し上げたく, 期待する次第であります。

1. 日 時: 1970 年 4 月 27 日 (月) 13.30~16.30
2. 場 所: 大阪科学技術センター 8 階小ホール 電話大阪 (06) 443-5321  
大阪市西区靱 1 丁目 118 番地 (地下鉄四ツ橋本町下車北へ 150 m 靱公園北東角)
3. 問題点提起者および司会  

|        |                         |         |
|--------|-------------------------|---------|
| 開 会 挨拶 | 土木学会関西支部長               | 野 瀬 正 儀 |
| 問題点提起者 | 近畿地方建設局企画部技術管理課長        | 成 田 久 夫 |
|        | 阪神高速道路公団工務部工務第一課長       | 今 井 宏 典 |
|        | 大阪府西大阪防潮工管所中之島工区長       | 須 山 修 次 |
| 司 会    | 京都大学教授工学部土工学教室 工博       | 吉 川 和 広 |
|        | (社) 建設コンサルタンツ協会大阪支部庶務幹事 | 柳 田 保 男 |
| 開 会 挨拶 | 土木学会関西支部幹事長             | 岡 田 清   |
4. 定 員: 100 名 (先着順)
5. 参 加 費: 無料, 参加歓迎
6. 申込方法: 参加希望者は勤務先, 連絡先および氏名を明記 (様式随意) し 4 月 11 日 (土) までに土木学会関西支部へお申し込み下さい。参加証をお送りします。

(3) 講習会「物理探査の土木工事への応用」 ◀ 4 月 24 日 (金) ▶

主 催: 土木学会関西支部・協 賛: 物理探査技術協会・土質工学会関西支部・日本鉱業会関西支部

1. 日 時: 1970 年 4 月 24 日 (金) 10.00~16.00
2. 場 所: 大阪科学技術センター 4 階 401 号 電話大阪 (06) 443-5321  
大阪市西区靱 1 丁目 118 番地 (地下鉄四ツ橋本町下車北へ 150 m 靱公園北東角)
3. 題目と講師:

|                        |                |           |
|------------------------|----------------|-----------|
| 開 会 挨拶                 | 土木学会関西支部長      | 野 瀬 正 儀   |
| 10.00~11.00 ① 弾性波探査の基礎 | 関西大学教授工学部 工博   | 谷 口 敬 一 郎 |
| 11.00~12.00 ② 弾性波探査の応用 | 京都大学教授防災研究所 理博 | 吉 川 宗 治   |

## 映画試写会中止について

土木学会視聴覚教育委員会では、毎月第2土曜日に映画試写会を行なっておりますが、5月は都合により中止致しますのでご了承下さい。

## Coastal Engineering in Japan, 1970 掲載原稿の公募について

土木学会海岸工学委員会では Coastal Engineering in Japan, 1970 に掲載する原稿を公募致します。提出される原稿は第16回海岸工学講演会に発表されたものを原則としますが、それ以外のものでも結構です。下記要項をご参照の上5月末までに原稿をご提出下さい。

なお提出された原稿は海岸工学委員会で査読のうえ、必要に応じて修正をお願いすることがありますのでご了承下さい。

### 投 稿 要 項

- ① 投稿される原稿はすべて英訳し、タイプ用紙にダブルスペースでタイプ打ちすること。
- ② 図面はそのまま製版にとれるよう線図、文字、符号等すべてトレーシングペーパー（白か透明）にスミ入れし、著者の責任において完全な図面を提出して下さい。
- ③ 原稿1編当りの長さは、刷上り10ページを原則とし（刷上り1ページは約600ワード）、掲載原稿はすべて刷上り1ページあたり1500円の掲載料をいただきます。なお、規定ページを超過した分については1ページ当り2500円負担していただきます。掲載料は本文刊行後請求いたします。
- ④ 校正は著者校正とし、校正の時に原稿および図面を大幅に変更した場合は組替え料（実費）をいただきます。
- ⑤ 著者には本書一冊を差し上げますが、別刷は希望者のみ実費で差し上げます。
- ⑥ 1970年版の予定は下記のとおりです。

○原稿締切：1970年5月末日／○著者校正：1970年9月以降／○刊行予定：1970年末

注：第16回海岸工学講演会の節 Coastal Engineering in Japan に掲載申込みを行なった方も上記要項をご参照のうえ原稿を提出して下さい。

## 第17回海岸工学講演会講演募集

第17回海岸工学講演会を下記により開催致しますので、講演ご希望の方は“講演募集要項”をご参照のうえご応募下さい。

なお、今回からは応募の際に論文要旨（800字程度）を提出していただくことになりましたのでご協力下さい。

また、従来の講演集の名称を変更し、“海岸工学講演会論文集”と致す予定でありますからおわせてご承知おき下さい。

1. 開催時期：1970年11月下旬

2. 場 所：新潟市

3. 講演申込締切：1970年6月30日（火）

4. 講演原稿締切：1970年8月15日（土）

5. 講演募集要項：

(1) 講演申込みの際は、つぎの事項をお含みおき下さい。

- ① 講演題目および800字程度の論文要旨
- ② 著者名（連名の場合には登壇者に○印をつける）ならびに職名および連絡先住所
- ③ 刷上り予定ページ数
- ④ 寄贈以外の別刷希望数（別刷50部は寄贈致します）
- ⑤ スライド、図面等の有無

(2) 同一内容の講演と一緒に2つ以上申込むことおよび同一著者が重複して登壇するものは受けません。

(3) 原稿1編の長さは原則として6ページ以内（350字詰原稿用紙35枚以内（図、表、写真を含む））と致します。

(4) 原稿の内容により6ページ以内に収録することが困難な場合は著者に実費（超過1ページにつき約5000円を負担してい



- (1) 日 時：5月8日(金) 18.00~20.00  
 (2) 会 場：土木学会土木図書館5号室  
 (3) 会 費：1000円  
 (4) 定 員：50名程度

7. プログラム

第1日：5月8日(金)

|             |                            |  |
|-------------|----------------------------|--|
| 9.30~9.40   | 開会挨拶                       | 構造物の耐風性に関する第1回シンポジウム組織委員会 委員長 平 井 敦    |
| 9.40~10.10  | 特別講演-1 地形性強風について(気流の収束と剝離) | 日本気象学会 相 馬 清 二                         |
| 10.10~10.40 | 特別講演-2 送電用鉄塔の耐風設計          | 電気学会 七 里 義 雄                           |
| 10.40~11.00 | (1) 霞が関超高層ビル周辺の風の特異性       | 東海大学 荒川秀俊・気象庁 ○相馬清二・堤敬一郎・気象庁 江口 博・常岡好枝 |
| 11.00~11.20 | (2) 徳島県那賀川海岸における強風の観測      | 日本大学 ○塩谷 正雄・国鉄 新井 秀雄                   |
| 11.20~11.40 | (3) 強風のスペクトルについて           | 東京工業大学 日 野 幹 雄                         |
| 11.40~12.00 | (4) 山岳地域における強風の特異性について     | 京都大学 ○光田 肇・藤谷徳之助・住友電気工業 松原一郎           |
| 12.00~12.20 | (5) 海面上の風の分布               | 東京工業大学 ○片岡 真二・日野 幹雄                    |
| 12.20~13.20 | 昼食・休憩                      |  |
| 13.20~13.40 | (6) クレーンに釣ったPC板等の風荷重について   | 鹿島建設 ○小林 正二・吉田 正邦                      |
| 13.40~14.00 | (7) 風の垂直分布を考慮せる角柱の風圧に関する研究 | 東北大学 亀 井 勇 夫                           |
| 14.00~14.20 | (8) 屋外実験による変動風圧の性状に関する研究   | 鹿児島大学 立 川 正 夫                          |
| 14.20~14.40 | (9) 霞が関超高層ビルでの風圧観測         | 旭硝子 ○三好 俊二・井田 金彦                       |
| 14.40~15.00 | (10) 中四幹線海峡横断鉄塔の耐風設計について   | 電源開発 金子 喜 八 郎                          |
| 15.00~15.20 | (11) 500 kV 送電用鉄塔の風荷重      | 東京電力 山 岸 啓 利                           |
| 15.20~15.40 | (12) 鳴門海峡横断送電線の耐風設計        | 関西電力 村 野 正 男                           |
| 15.40~15.50 | 休 憩                        |  |
| 15.50~16.10 | (13) カルマン渦による円柱の振動について     | 三菱重工業 山口富夫・白木万博・○梅村直・松井友二              |
| 16.10~16.30 | (14) 振動円柱の非定常空気力に関する研究     | 三菱重工業 笠口展宏・田中博喜・○高原茂・松井友二              |
| 16.30~16.50 | (15) 二自由度フラッターとしての円柱のうず励振  | 九州大学 中 村 泰 治                           |
| 16.50~17.10 | (16) 下関火力鉄塔支持型煙突の振動について    | 中国電力 角 本 直 人                           |
| 17.10~17.30 | (17) 鉄塔支持型煙突の風による振動の測定と解析  | 北海道大学 酒井忠明・芳村 仁・○薄木征三・秋田大学 色部 誠        |

第2日：5月9日(土)

|             |                                     |   |
|-------------|-------------------------------------|---|
| 9.30~10.00  | 特別講演-3 鋼構造協会における耐風調査研究活動について        | 日本鋼構造協会 仲 威 雄                                       |
| 10.00~10.30 | 特別講演-4 建築物設計用風圧力の歴史的展望              | 日本建築学会 亀 井 勇 夫                                      |
| 10.30~11.00 | 特別講演-5 吊橋の耐風性について                   | 土木学会 平 井 敦  |
| 11.00~11.20 | (18) 剝離流フラッター                       | 清水建設 大塚志夫・東京大学 ○鷗津久一郎・富沢治利・吉田光治                     |
| 11.20~11.40 | (19) スロットをもつ平板のフラッター現象に関する二、三の考察    | 京都大学 ○白石 成人・浅沼 秀弥                                   |
| 11.40~12.00 | (20) 空気流中で振動する平板の安定性                | 東京大学 東 原 欽 道  |
| 12.00~13.00 | 昼食・休憩                               |   |
| 13.00~13.20 | (21) 桁高、幅員比の小さい閉断面箱桁の吊橋のフラッターに関する研究 | 三菱重工業 坂 田 弘   |
| 13.20~13.40 | (22) 風の渦による橋げたの振動                   | 東京大学 伊藤 学・○田中 宏                                     |
| 13.40~14.00 | (23) トラス補剛吊橋の耐風性について                | 建設省 大久保 忠良・○櫻波 義幸                                   |
| 14.00~14.20 | (24) 不規則気流による吊橋の振動に関する研究            | 三菱重工業 笠口展宏・坂田 弘・○田中博喜                               |
| 14.20~14.40 | (25) 長大吊橋の架設時の耐風安定性について             | 三菱重工業 山口富夫・○白木万博・福沢 清・伊藤敏一・田中博喜                     |
| 14.40~15.00 | (26) 調和的に変動する風の発生に関する基礎研究           | 九州大学 河島佑男・三菱重工業 ○田中博喜・九州大学 藤本信弘                     |
| 15.00~15.10 | 休 憩                                 |   |
| 15.10~15.30 | (27) 強風時における500 kV 送電鉄塔の挙動の実測と検討    | 電力中央研究所 高野 博・○前野 陽治                                 |
| 15.30~15.50 | (28) 鉄骨トラス型テレビ塔の風による振動について          | 京都大学 石崎 澆雄・○室田 達郎                                   |
| 15.50~16.10 | (29) パラボラアンテナ面内に作用する変動空気力に関する研究     | 三菱重工業 小川重夫・笠口展宏・坂田 弘・○田中博喜                          |
| 16.10~16.30 | (30) 早大理工学部1号館に作用する動風圧の測定と解析        | 早稲田大学 松井源吾・建設省 牧野 稔・早稲田大学○永井亮一・磐田正晴                 |
| 16.30~16.50 | (31) 強風時の早大理工学部1号館の応答実測とその解析        | 早稲田大学 竹内盛雄・松井源吾・建設省 牧野 稔<br>早稲田大学 永井 亮一・○風間 了・新谷 真人 |
| 16.50~17.10 | (32) 風による架空送電線の運動と荷重                | 電力中央研究所 坂本雄吉・藤倉電線○大月 晃                              |
| 17.10~17.20 | 閉 会 挨拶                              |   |

国際岩の力学会 (International Society for Rock Mechanics.)

略称 I.S.R.M.) の新会員募集について

岩の力学研究連合委員会

国際岩の力学会 (I.S.R.M.) の参加国は現在 37 ヶ国、会員数 2835 名で、各国に国内委員会が設置されつつあり、日本も国内委員会 (現 50 名の会員) を 1969 年に設置して承認されております。

会員としての恩典は、現在のところ以下の諸点が主なるものでありますが、将来会員数が増えるにつれて、より一

## 第6回トンネル工学に関するシンポジウム（国際シンポジウム）

### 開催のご案内 —Tunnel Symposium '70—

世界的なトンネル工事の増大（急激に進む都市交通機関の地下鉄化および高速道路網や鉄道網の発達ならびに都市中心部の地下街化に基づく）に伴い、各国におけるトンネル工学およびトンネル工事一般に対する関心が高まりつつある一方、各種科学技術の進歩に基づき、トンネル技術の革新も次々と行なわれつつあり、技術的見地のみならず、社会経済的立場からも各国の協力の必要が痛感されて来ています。

すでに OECD（欧州経済協力機構）の事務局はこの世界的すう勢に鑑みて各加盟国政府に対して、トンネル工学および施工技術（これに伴う社会経済的計画も含めて）の国際的協力を提唱し昨年来準備をすすめており、今年6月ワシントンにおいて政府機関ベースの国際トンネル会議を開催されることになりました。

一方わが国も周知のように山岳国がかつ島嶼国であるための平地にとぼしく、今後の経済発展に即応するための各種の交通機関の整備を始め、都市開発その他の建設計画の遂行にあたりトンネル建設にまつこと絶大であり、現在施工中および計画中のトンネル計画は無数といえます。

土木学会はこのように年々増大するトンネル工事の重要性に着目し、昭和37年にトンネル工学委員会を設置して以来、トンネル工事標準示方書やシールド工法指針の制定を始め数々の委託研究を行なうとともに、昨年までに5回のトンネル工学に関するシンポジウムを開催するなどトンネル技術の改善に努めて来ましたが、このたび万博の日本開催を契機として9月に開催する第6回トンネル工学に関するシンポジウムの規模を拡大して各国専門家の参加を求めてトンネル工学の国際シンポジウムを開催し、各国専門家と情報意見の交換をはかり、相互協力の体制を固めトンネル工学一般の発展に資したいと考え昨年来準備をすすめております。

シンポジウムは下記の日程で東京において開催されますが、このシンポジウムは米・独・英・オランダから著名なトンネル工事の経験者が6名参加し、わが国のトンネル専門家とともにそれぞれの専門分野の報告をすることになっており、そのほか数十名の各国のトンネル専門家が参加する予定です。国内からも多数の方々が参加されるようご案内いたします。

1. 日 時：1970年9月14日（月）、15日（火）、18日（水）
2. 会 場：東京文化会館（台東区上野公園）
3. 会 費：7 000 円
4. 交 歓 会：1970年9月14日（月）夜／会場：パレスホテル／会費：3 000 円
5. プログラム

#### 第1日目（14日）

|                 |                   |                     |
|-----------------|-------------------|---------------------|
| 午前（9：30）        | 受付、資料配布           |                     |
| 午後（13：00～13：15） | 開会の挨拶             | 土木学会長               |
| （13：15～14：45）   | 特別講演：日本におけるトンネル工事 | 藤井松太郎（トンネル工学委員会委員長） |
| （14：45～15：00）   | 休 憩               |                     |

#### I 岩石トンネル掘進機の現状と将来

|                  |                          |                           |
|------------------|--------------------------|---------------------------|
| 15：00～16：00（G.R） | U.S.Aにおける岩石トンネル掘進機の現状と将来 | J. George Thon（アメリカ ASCE） |
| 16：00～17：00（G.R） | わが国における岩石トンネル掘進機の現状と将来   | 三 谷 健（建設機械化研究所）           |
| 18：00～20：30      | レセプション                   |                           |

#### 第2日目（15日）

#### II 山岳トンネルにおける不良地盤掘削工法

|                  |                           |                              |
|------------------|---------------------------|------------------------------|
| 9：30～10：30（G.R）  | イタリアの山岳トンネルにおける不良地盤掘削工法   | （イタリアの予定）                    |
| 10：30～11：30（G.R） | わが国における山岳トンネルにおける不良地盤掘削工法 | 島田隆夫（国鉄）                     |
| 11：30～12：15（S.R） | 膨張性地山におけるトンネルの施工法         | 足立貞彦（鉄道建設公団）                 |
| 12：15～13：30      | 昼 食、休 憩                   |                              |
| 13：30～14：30（G.R） | 不良地盤におけるトンネル掘削            | Victor L. Stevens（アメリカ SMEA） |
| 14：30～15：15（S.R） | トンネル土圧の時間依存性              | 村山朔郎（京都大学）                   |
| 15：15～15：30      | 休 憩                       |                              |
| 15：30～17：30      | 映 画 （青函トンネル・地下鉄の建設）       |                              |

#### 第3日目（16日）

#### III 市街地の軟弱地盤におけるトンネル工法

|                  |                               |                      |
|------------------|-------------------------------|----------------------|
| 9：30～10：30（G.R）  | イギリスにおける地下水のある砂礫地盤のシールド工法について | Thmas M. Megaw（イギリス） |
| 10：30～11：30（G.R） | わが国における都市トンネルの現状と特異性について      | 西嶋國造（営団）             |
| 11：30～12：15（S.R） | 東京駅における軟弱地盤の大規模開削             | 横山浩雄（国鉄）             |
| 12：15～13：30      | 昼 食、休 憩                       |                      |

する。

- d. 採択された論文の著者は、1970年7月末日までに、論文の原稿に投稿料1編につき3000円を添えて、当学会または幹事学会に提出する。
- e. 論文原稿の体裁は、採否の通知と同時に採択された論文の著者に連絡するが、用語は日本語または英語とし、日本語の場合は10000字(B5判、7ページ)程度、英語の場合は4000語(B5判、8ページ)程度以内に収まるよう、所定の用紙にタイプ印字する形式となる予定である。プロシーディングスはこの原稿をオフセット印刷して、シンポジウム開催時に配布し、シンポジウム後、討論その他を別冊として印刷配布する。

---

## 第15回材料強度と破壊国内総合シンポジウム

◀ 4月7日(火) ▶

1. 共 催：日本学術会議強度と破壊委員会、ほか7団体
2. 協 賛：土木学会、ほか10団体
3. 日 時：1970年4月7日(火) 9.15~17.35
4. 場 所：石川島播磨重工業豊洲総合事務所4階ホール(東京都江東区豊洲2-3)
5. 参 加 料：無料
6. テキスト：750円
7. 申 込 先：郵便番号980 仙台市大町1-1-13 東活ビル内 日本金属学会(電話 仙台 23-3685)  
なお、詳細は上記へお問い合わせ下さい。

---

## 第8回接着研究発表会講演募集

1. 主 催：日本接着協会ほか、関連学協会
2. 日 時：1970年6月4日(木)、5日(金)
3. 会 場：大阪科学技術センター
4. 特別講演：2題
5. 研究発表：10分 討論10分
6. 研究発表の内容：接着に関連があるすべての研究  
(A) 物性/(B) 界面現象/(C) 合成/(D) 接着加工/(E) 分析/(F) 試験法/(G) その他
7. 申込締切：3月20日(必着)
8. 申込方法：研究発表申込書を送付して下さい(申込書は自作で可、透明コピー用紙に黒インキで書くこと)。申込書には下記の事項を明記して下さい。  
(A) 演題/(B) 研究者(氏名、勤務先、住所、電話、発表者に○印)/(C) 講演内容(200字程度、目的、方法、結果)/(D) 分類(物性、合成、加工など)
9. 講演要旨締切：4月30日  
申込者には所定の写真印刷用紙をお送りします(1480字詰原稿用紙2枚)。
10. 申込取消：プログラム編成に差し支えますので、1日も早くお願いします。
11. 申 込 先：郵便番号550 大阪市西区江之子島 大阪府立工業奨励館内 日本接着協会年会係 電 大阪(06)443-1121 内線280
12. 東京連絡先：東京都目黒区大岡山 東京工業大学高分子工学科(畑研究室内) 日本接着協会関東支部 電 東京(03)726-1111 内線2121

---

## “表面と接着”討論会講演募集

1. 主 催：日本接着協会ほか関連学協会
2. 日 時：1970年6月6日(土)(第8回接着研究発表会の翌日)
3. 会 場：大阪科学技術センター

|             |      |                      |       |                           |
|-------------|------|----------------------|-------|---------------------------|
| 14.20~14.40 | (9)  | 霞が関超高層ビルでの風圧観測       | 旭硝子   | ○三好 俊二・井田 金彦              |
| 14.40~15.00 | (10) | 中四幹線海峡横断鉄塔の耐風設計について  | 電源開発  | 金子 啓八郎                    |
| 15.00~15.20 | (11) | 500 kV 送電用鉄塔の風荷重     | 東京電力  | 山 岸 啓利                    |
| 15.20~15.40 | (12) | 鳴門海峡横断送電線の耐風設計       | 関西電力  | 村 野 正 男                   |
| 15.40~15.50 |      | 休 憩                  |       |                           |
| 15.50~16.10 | (13) | カルマン渦による円柱の振動について    | 三菱重工業 | 山口富夫・白木万博・○梅村直・松井友二       |
| 16.10~16.30 | (14) | 振動円柱の非定常空気力に関する研究    | 三菱重工業 | 笠口展宏・田中博喜・○高原茂・松井友二       |
| 16.30~16.50 | (15) | 二自由度フラッターとしての円柱のうず励振 | 九州大学  | 中 村 泰 治                   |
| 16.50~17.10 | (16) | 下関火力鉄塔支持型煙突の振動について   | 中国電力  | 角 本 直 人                   |
| 17.10~17.30 | (17) | 鉄塔支持型煙突の風による振動の測定と解析 | 北海道大学 | 酒井忠明・芳村 仁・○薄木征三・秋田大学 色部 誠 |

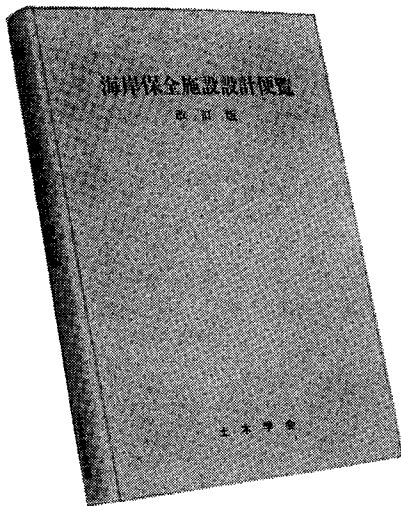
第2日：5月9日(土)

|             |      |                                |         |                               |
|-------------|------|--------------------------------|---------|-------------------------------|
| 9.30~10.00  |      | 特別講演-3 鋼構造協会における耐風調査研究活動について   | 日本鋼構造協会 | 仲 威 雄                         |
| 10.00~10.30 |      | 特別講演-4 建築物設計用風圧力の歴史的展望         | 日本建築学会  | 亀 井 勇                         |
| 10.30~11.00 |      | 特別講演-5 吊橋の耐風性について              | 土木学会    | 平 井 敦                         |
| 11.00~11.20 | (18) | 舳離流フラッター                       | 清水建設    | 大築志夫・東京大学○鷗津久一郎・富沢治利・吉田光治     |
| 11.20~11.40 | (19) | スロットをもつ平板のフラッター現象に関する二、三の考察    | 京都大学    | ○白石 成人・浅沼 秀弥                  |
| 11.40~12.00 | (20) | 空気流中で振動する平板の安板の安定性             | 東京大学    | 東 原 統 道                       |
| 12.00~13.00 |      | 昼 食・休 憩                        |         |                               |
| 13.00~13.20 | (21) | 桁高、幅員比の小さい閉断面箱桁の吊橋のフラッターに関する研究 | 三菱重工業   | 坂 田 弘                         |
| 13.20~13.40 | (22) | 風の渦による橋げたの振動                   | 東京大学    | 伊藤 学・○田中 宏                    |
| 13.40~14.00 | (23) | トラス補剛吊橋の耐風性について                | 建設省     | 大久保忠良・○覆波 義幸                  |
| 14.00~14.20 | (24) | 不規則気流による吊橋の振動に関する研究            | 三菱重工業   | 笠口展宏・坂田 弘・○田中博喜               |
| 14.20~14.40 | (25) | 長大吊橋の架設時の耐風安定性について             | 三菱重工業   | 山口富夫・○白木万博・福沢 清・伊藤敏一・田中博喜     |
| 14.40~15.00 | (26) | 調和的に変動する風の発生に関する基礎研究           | 九州大学    | 河島佑男・三菱重工業○田中博喜・九州大学 藤本信弘     |
| 15.00~15.10 |      | 休 憩                            |         |                               |
| 15.10~15.30 | (27) | 強風時における 500 kV 送電鉄塔の挙動の実測と検討   | 電力中央研究所 | 高野 博・○前野 陽治                   |
| 15.30~15.50 | (28) | 鉄骨トラス型テレビ塔の風による振動について          | 京都大学    | 石崎 澁雄・○室田 達郎                  |
| 15.50~16.10 | (29) | パラボラアンテナ面内に作用する変動空気力に関する研究     | 三菱重工業   | 小川重夫・笠口展宏・坂田 弘・○田中博喜          |
| 16.10~16.30 | (30) | 早大理工学部1号館に作用する動風圧の測定と解析        | 早稲田大学   | 松井源吾・建設省 牧野 稔・早稲田大学○永井亮一・磐田正晴 |
| 16.30~16.50 | (31) | 強風時の早大理工学部1号館の応答実測とその解析        | 早稲田大学   | 竹内盛雄・松井源吾・建設省 牧野 稔            |
| 16.50~17.10 | (32) | 風による架空送電線の運動と荷重                | 早稲田大学   | 永井 亮一・○風間 了・新谷 真人             |
| 17.10~17.20 |      | 閉 会 挨拶                         | 電力中央研究所 | 坂本雄吉・藤倉電線○大月 晃                |

第14回材料研究連合講演会講演募集

◀ 講演申込締切 6月10日(水) ▶

- 共 催：日本学術会議材料研究連絡委員会・応用物理学会・化学工学協会・金属表面技術協会・軽金属学会・高分子学会・セメント協会・電気学会・土木学会・日本鋳物協会・日本化学会・日本機械学会・日本金属学会・日本建築学会・日本航空宇宙学会・日本材料学会・日本材料科学会・日本材料強度学会・日本造船学会・日本鉄鋼協会・日本非破壊検査協会・日本木材学会・溶接学会・窯業協会
- 幹事学会：化学工学協会・高分子学会・日本化学会・日本航空宇宙学会・日本材料学会・日本鉄鋼協会
- 開催日：1970年9月1日(火)、2日(水)の予定
- 会 場：京都府勤労会館の予定
- 講演申込：
  - 参加学会所属の会員は当該学会を通じて申込み、参加学会会員以外の方は直接幹事学会に申込むこと。
  - 講演内容はすでに発表されたものでもさしつかえないが、最近の研究に属するものが望ましい。なお、研究内容は材料の諸物性、諸性質の測定および試験ならびに材料の適切な使用に関する応用研究を包含する。  
なお、今回も後記主題によるシンポジウムをも開催するので多数のご参加を期待する。
  - 講演時間は約20分(討論を含む)の予定
  - 講演の採択などは材料研究連合講演会運営委員会に一任されたい。
  - 申込用紙はB5判とし、次の事項を必ず記載すること。
    - 講演題目/b) 梗概約200字/c) 講演部門名(下記講演部門参照のこと)/d) 講演者ならびに連名者の各氏名、勤務先、通信先、学会員資格、年齢(連名の場合は登壇者に○印をつけること)/e) 講演題目、氏名、勤務先には英文を付記すること/f) スライド使用の有無(大きさは35mm)/g) 欧文論文集(付記参照)へ投稿希望の有無
- 申込締切：1970年6月10日(水)
- 講演前刷：参加者のテキストとし、あわせて講演時間の短縮、掛図などの節約のため、講演者全部の講演前刷を作るので、講



昭和32年以来、丸12年ぶりに全面改訂された決定版。36名におよぶ執筆者が、それぞれ得意な分野を手分けして執筆。とくに現場に役立つよう設計施工面に重点をおいて記述す。

B5判 304ページ上製

■定価 2300円

□会員特価 2000円  
(〒100円)

郵便番号 160

東京都新宿区四谷1丁目

電話 351-4131(直)

振替 東京 16828

**土木学会**

土木学会海岸保全施設設計便覧改訂小委員会編

# 海岸保全施設設計便覧 改訂版

## 主要目次

### 第1章 海岸における水理現象

第1節 概論 第2節 波の概説 2.1 波の種類 2.2 波の発達 2.3 波の進行に伴う変化 第3節 深海波 3.1 深海波の性質 3.2 深海風波の推定法 第4節 浅海波 4.1 浅海の進行波の性質 4.2 屈折 4.3 回折 4.4 反射 4.5 重複波 4.6 海底摩擦 4.7 砕波 第5節 波力 5.1 重複波の波圧 5.2 砕波の圧力 5.3 砕波後の波の波圧 5.4 水中の物体に作用する波力 5.5 波力に対する捨石斜面の安定 5.6 波のうちあげ高 5.7 越波量 第6節 潮位 6.1 天文潮 6.2 気象潮 第7節 津波 7.1 津波の発生と伝播 7.2 陸棚上および湾内津波と津波の遡上 7.3 わが国での津波 第8節 流れ 8.1 海流 8.2 潮流 8.3 密度流 8.4 風および波による流れ 第9節 漂砂 9.1 概説 9.2 海岸地形と漂砂 9.3 漂砂量 第10節 飛砂 10.1 概説 10.2 飛砂量

### 第2章 海岸調査

第1節 気象観測 1.1 概説 1.2 風の観測 第2節 波の観測 2.1 概説 2.2 波高、周期の観測 第3節 漂砂の調査 3.1 概説 3.2 調査法 第4節 土質調査 4.1 概説 4.2 調査法 第5節 流れの観測 5.1 概説 5.2 観測法

### 第3章 設計法

第1節 概論 1.1 海岸工事概説 1.2 高潮対策 1.3 埋没および侵食対策 第2節 材料 2.1 アスファルト 2.2 鋼材 2.3 矢板 2.4 コンクリート 2.5 木材 2.6 石材 第3節 消波工 3.1 消波工の定義 3.2 異形ブロックの発生 3.3 異形ブロックの安定 3.4 消波工の特長 3.5 消波工の設計 3.6 施工、実施例 第4節 堤防と護岸 4.1 種類 4.2 位置 4.3 のり勾配 4.4 高さ 4.5 構造 4.6 例 第5節 突堤と離岸堤 5.1 概要 5.2 突堤 5.3 離岸堤 第6節 導流堤 6.1 河口閉塞 6.2 導流堤の機能 6.3 配置 6.4 構造と実例 第7節 養浜 7.1 概説 7.2 施工法の種類 7.3 計画上の注意事項 7.4 施工例 第8節 防潮水門 8.1 概説 8.2 計画上の基本事項 8.3 計画および設計指針 8.4 設計 第9節 特殊海岸工事 9.1 概説 9.2 海岸の排水工 9.3 水質の改良保全工 付表 索引 資料広告

### 第 3 回日本地震工学シンポジウム (1970) の開催と発表論文の募集

日本地震工学シンポジウムは、1962 年に第 1 回が開催され、1966 年の第 2 回について、本年秋その第 3 回が開催されることになりました。このシンポジウムは、世界地震工学会議の中間年ごとに催され、わが国において広い分野にわたる研究集会としての大きい意義をもつと同時に、そのプロシーディングスは、国際的にもきわめて高水準にあるものとして高く評価されております。

今回の第 3 回日本地震工学シンポジウム (Third Japan Earthquake Engineering Symposium-1970) は、つぎのような要領によって開催し、海外研究者の有志にも参加できるよう門戸を開くとともに、国内の地震工学研究者、技術者の研鑽および研究情報交換の場にいたしたいと存じますので、会員各位には下記規定をご参照のうえ、ふるってご応募下さい。なお、土木学会において毎年開催しております“地震工学研究発表会”は、1970 年は開催いたしませんのでご了承下さい。

主 催：地震学会・土質工学会・土木学会・日本建築学会

#### (1) 開催予告

1. 日 時：1970 年 11 月 17 日 (火)、18 日 (水)、19 日 (木)、20 日 (金)
2. 場 所：東京 (第一生命ホールおよび東京商工会議所ホールの予定)
3. シンポジウムの内容：論文発表、パネル討論および見学
4. パネル討論：テーマ「地震時における地盤の挙動および地盤と構造物の相互作用」について行なう。
5. 見学会：国立防災科学技術センター大型振動台 (筑波)

#### (2) 発表論文の募集

1. 発表論文の内容：地震工学に関するもの。最近の研究に属するものが望ましいが、既発表のものを含んでもさしつかえない。
2. 応募の方法：
  - a. 論文提出希望者は、1970 年 5 月 15 日までに、所属学会、氏名 (ローマ字付記)、勤務先 (英文付記)、職名、連絡先を明記のうえ、邦文約 800 字または英文約 400 語の内容梗概を、当学会または今回の幹事学会である下記に提出する。  
土質工学会：東京都港区西新橋 1-13-5 (東亜別館内)
  - b. 論文の応募は、共著のものを含み、1 名につき 2 編以内を原則とする。ただし、論文の発表は 1 名につき 1 題を原則とするので、共著論文の場合は発表者を明記する。
  - c. 発表論文の採否は、応募全論文数、発表時間等をも勘案してシンポジウム運営委員会が決定し、すみやかに応募者に通知する。
  - d. 採択された論文の著者は、1970 年 7 月末日までに、論文の原稿に投稿料 1 編につき 3 000 円を添えて、当学会または幹事学会に提出する。
  - e. 論文原稿の体裁は、採否の通知と同時に採択された論文の著者に連絡するが、用語は日本語または英語とし、日本語の場合は 10 000 字 (B5 判、7 ページ) 程度、英語の場合は 4 000 語 (B5 判、8 ページ) 程度以内に収まるよう、所定の用紙にタイプ印字する形式となる予定である。プロシーディングスはこの原稿をオフセット印刷して、シンポジウム開催時に配布し、シンポジウム後、討論その他を別冊として印刷配布する。

### 第 8 回接着研究発表会講演募集

1. 主 催：日本接着協会ほか、関連学協会
2. 日 時：1970 年 6 月 4 日 (木)、5 日 (金)
3. 会 場：大阪科学技術センター
4. 特別講演：2 題
5. 研究発表：10 分 討論 10 分
6. 研究発表の内容：接着に関連があるすべての研究  
(A) 物性/(B) 界面現象/(C) 合成/(D) 接着加工/(E) 分析/(F) 試験法/(G) その他
7. 申込締切：3 月 20 日 (必着)



8. 申込方法：研究発表申込書を送付して下さい（申込書は自作で可、透明コピー用紙に黒インキで書くこと）。申込書には下記の事項を明記して下さい。  
（A）演題／（B）研究者（氏名、勤務先、住所、電話、発表者に○印）／（C）講演内容（200字程度、目的、方法、結果）／（D）分類（物性、合成、加工など）
9. 講演要旨締切：4月30日  
申込者には所定の写真印刷用原稿用紙をお送りします（1480字詰原稿用紙2枚）。
10. 申込取消：プログラム編成に差し支えますので、1日も早くお願いします。
11. 申込先：郵便番号550 大阪市西区江之子島 大阪府立工業奨励館内 日本接着協会年会係  
電 大阪（06）443—1121 内線 280
12. 東京連絡先：東京都目黒区大岡山 東京工業大学高分子工学科（畑研究室内）日本接着協会関東支部  
電 東京（03）726—1111 内線 2121

## “表面と接着” 討論会講演募集

1. 主 催：日本接着協会ほか関連学協会
2. 日 時：1970年6月6日（土）（第8回接着研究発表会の翌日）
3. 会 場：大阪科学技術センター
4. 特別講演：1題
5. 一般研究発表：  
○講演 15分 討論 15分  
○表面と接着に関係があるすべての研究——表面の化学的、物理的、機械的性質、界面現象、表面処理、Weak Boundary Layer, Transcrystalline, Morphology, Topography, 破壊の場所、凝集破壊か界面破壊か、レオロジー、力学、測定法、試験法、その他  
○系統的に1つのテーマにまとめたもの。既発表の報告を含むことは差し支えない。  
前日の第8回接着研究発表会で発表した報告を組んでもよい。
6. 申込締切：3月20日（必着）
7. 申込方法：申込書（自作で可、透明コピー用紙に黒インキで記入すること）に下記事項を明記、郵送のこと。  
（A）演題／（B）研究者（氏名、勤務先、住所、電話、発表者に○印）／（C）講演内容（200字程度、目的、方法、結果）
8. 講演要旨締切：4月30日（必着）  
申込者には所定の写真印刷用原稿用紙をお送りします（1480字詰原稿用紙6枚以上）。
9. 申込取消：プログラムの編成に差し支えますので、1日も早くお願いします。  
大阪市西区江之子島 大阪府立工業奨励館内
10. 申込先：日本接着協会“表面と接着”討論会係 電 大阪（06）443—1121 内線 280
11. 東京連絡先：東京都目黒区大岡山 東京工業大学高分子工学科（畑研究室内）日本接着協会関東支部  
電 東京（03）726—1111 内線 2152

北海道支部行事案内（郵便番号060 札幌市南1条西2丁目・勸銀ビル5階）  
電 0122-25-7038

## 昭和44年度北海道支部通常総会

◀ 4月30日（木） ▶

1. 日 時：1970年4月30日（木）15.00～17.00
2. 場 所：勸銀ビル9階（札幌市南1西2 丸井前）
3. 総会次第：① 44年度事業報告、② 同会計報告、③ 同監査報告、④ 支部奨励賞選考結果報告、⑤ 44年度役員選挙結果発表、⑥ 44年度支部長退任あいさつ、⑦ 新支部長あいさつ

◎会員多数のご出席を期待いたします。

東北支部行事案内 (郵便番号 980 仙台市二日町 18-25・丸七ビル)  
電話 0222-22-7244

昭和 45 年度東北支部総会

◀ 5 月 12 日 (火) ▶

1. 日 時: 1970 年 5 月 12 日 (火) 15.00~17.00
2. 場 所: 宮城県建設会館 4 階大会議室  
仙台市上杉一丁目 4-20 電話 25-8851
3. 議 題: ① 昭和 44 年度事業報告および決算報告の承認  
② 昭和 45 年度事業計画および予算の報告  
③ 役員改選の報告  
④ 映画 2 編 (題未定)

◎この会告をもって総会開催の通知といたします。なお総会后 17.30 分より懇親会を催します (会費は 1000 円)。準備の都合がありますので、総会ならびに懇親会に参加の方は 5 月 9 日までにお知らせ下さい。

関東支部行事案内 (郵便番号 160 東京都新宿区四谷 1 丁目 土木学会総務課内)  
電話 03-351-4133

関東支部総会 (第 7 回通常総会)

◀ 4 月 28 日 (火) ▶

1. 場 所: 土木学会 土木図書館講堂
2. 議 題: ① 昭和 44 年度事業報告および決算報告の承認  
② 昭和 45 年度事業計画および予算の報告  
③ 商議員改選の承認

◎この会告をもって総会開催通知といたします。支部会員多数ご出席下さい (なお、総会后懇親会を開催いたしません)。

中部支部行事案内 (郵便番号 450 名古屋市中村区笹島町 1-18・名古屋鉄道管理局施設部)  
工事第 1 課内 電話 052-551-811 内線 266

昭和 45 年度中部支部総会

◀ 4 月 23 日 (木) ▶

1. 日 時: 1970 年 4 月 23 日 (木)
2. 場 所: 富山県富山市県民会館 4 階 401 号
3. 総 会: 13.00
  - ① 開 会 旧幹事長
  - ② 旧支部長挨拶
  - ③ 新支部長挨拶
  - ④ 会長挨拶
  - ⑤ 会務報告 旧幹事長
  - ⑥ 特別講演 立山トンネル工事について 立山黒部貫光KK専務取締役 四十万小 祐
  - ⑦ 映画 (ビデオ) 立山の四季/常願寺川災害記録
  - ⑧ 懇 親 会 宇奈月 (桃源) 18.00/会費 2000 円 (宿泊料とも)
  - ⑨ 見 学 会 富山新港周辺工事 (宇奈月出発 8.30)
  - ⑩ 申 込 み 4 月 4 日 (土) までに土木学会中部支部あるいは富山県土木部道路建設課へ申し込んで下さい。なお懇親会出席ご希望の方は会費をそえること。

関西支部行事案内 (郵便番号 541 大阪市東区船場中央 2 丁目 2 番地) 船場センタービル 4 号館 409 号 電話 (06)271-6686, 振替 大阪 82599 番

土木学会関西支部事務所移転

本年 3 月 12 日つぎのとおり移転いたしました。ご通知申し上げます。

大阪市東区船場中央 2 丁目 2 番地 船場センタービル 4 号館 409 号室 (郵便番号 541)

土木学会 関西支部 電話大阪 (06) 271-6686

地下鉄堺筋線または中央線堺筋本町下車

(1) 関西支部年次学術講演会 (昭和 45 年度) ◀ 5 月 10 日 (日) ▶

1. 日 時: 1970 年 5 月 10 日 (日) 9.00~17.30

2. 場 所: 近畿大学理工学部 電話大阪 (06) 722-1144 番 東大阪市小若江 321 近鉄大阪線長瀬駅下車徒歩約 10 分

3. 講演題目および講師:

A. 特別講演 (12.55~13.50) 33 号館 第 1 教室

12.55~13.00 換 撓 土木学会 関西支部長 野 瀬 正 儀
13.00~13.50 現代技術教育の原理と方法 大阪大学教授 文学部 扇 谷 尚

B. 一般講演 (発表時間 1 題 10 分)

I 応用力学・構造力学・構造工学・橋梁一般・鋼橋等

第 1 会場 (午前) 9.00~10.30

- I-1 軸力の影響を考慮した骨組の弾塑性解析について (スライド) 京都大学 正 工博 丹羽義次・正 工修 小林昭一・日建設計工務 正 工修 ○伊藤智造
I-2 ネットワークポロジ-的性質を用いた骨組構造物の弾塑性解析 京都大学 正 工博 小西一郎・正 工博 白石成人・学 工修 玉村三郎・学 工修 ○谷口健男
I-3 ねじり剛性を考慮した斜張橋の解析 大阪大学 正 工博 前田幸雄・正 林 正・学 工修 ○井本賀章
I-4 プレストレス導入による斜張橋の弾性挙動について 大阪大学 正 工博 前田幸雄・正 林 正・学 ○追田治行
I-5 長大吊橋上部構造の設計のシステム化について (スライド) 大阪大学 正 工博 小松定夫・正 ○西村宜男
I-6 神戸大橋の建設工事について (スライド) 神戸市港湾局 正 安孫子享一・正 中村五郎・正 工修 ○島田善十郎
討 議 I-1~6 10.30~12.00
I-7 吊橋主塔建設時の耐風対策の一試案 日立造船 正 牛尾正之・正 ○植田利夫
I-8 塔状構造物の耐風設計と安全性 (スライド) 大阪大学 正 工博 小松定夫・正 工修 小林敏士・学 ○中山隆弘
I-9 構造物のフラッター限界風速に関する近似算法について (スライド) 京都大学 正 工博 白 石 成 人
I-10 箱型断面に作用する定常空気力に関する基礎的研究 京都大学 正 工博 小西一郎・正 工博 白石成人・正 工博 宇都宮英彦・川崎重工業 正 工修 ○小川一志
I-11 走行荷重によるつり橋の振動性状に関する研究 京都大学 正 工博 小西一郎・正 工修 白石成人・建設省 正 ○大石久和・京都大学 学 永田智康
I-12 ビルツ式 PC ギャルバー桁橋の振動性状について (スライド) 阪神高速道路公団 正 工修 今井宏典・神戸大学 正 工修 藤井 学・阪神高速道路公団 正 工修 ○和田的治
討 議 I-7~12 第 1 会場 (午後) 14.00~15.30
I-13 吊橋主塔と基礎岩盤の連成振動について (その 2) 神戸大学 学 ○友沢武昭・正 工修 北村泰寿・正 工博 畑中元弘
I-14 粘弾性地盤上の剛基礎体の振動解析について (スライド) 京都大学 正 工博 後 藤 尚 男
I-15 地盤中にある構造物の剛性変化について (スライド) 京都大学 正 工博 後藤尚男・正 工博 土岐憲三・学 工修 ○高田至郎
I-16 強震時における土木構造物の漸増塑性変形に関する考察 京都大学 正 工博 後藤尚男・正 工修 亀田弘行・学 工修 ○家村浩和
I-17 構造物の近傍における不均質性地盤の震動特性 京都大学 正 工博 土 岐 憲 三
I-18 鋼矢板打込みを振動源とする近接家屋の振動測定例 阪神高速道路公団 正 松永 明・正 工修 ○前原 博
討 議 I-13~18 15.30~17.00
I-19 統計的手法による構造物の地震時最大応答推定 (スライド) 京都大学 正 工博 山田善一・京都大学 正 工修 ○竹宮宏和
I-20 鋼構造物の最小重量設計 京都大学 正 工博 山田善一・建設省 正 工修 ○喜多河信介
I-21 骨組構造物の最小重量設計 京都大学 正 工博 山田善一・新日本技術コンサルタント 正 工修 ○岡田鉄三
I-22 不静定構造物の破壊確率に関する 2, 3 の考察 京都大学 正 工博 小西一郎・正 工博 白石成人・正 工修 ○白井勝之
I-23 構造物の安全率に関する 2, 3 の考察 京都大学 正 工博 小西一郎・正 工修 白井勝之・大林組 正 工修 ○山取久輝
討 議 I-19~23 第 2 会場 (午前) 9.00~10.30
I-24 負モーメントを受ける合成桁の疲労に関する実験的研究 (第 4 報) (スライド) 大阪大学 正 工博 前田幸雄・学 工修 ○梶川靖治・学 高橋文雄・学 田村 哲・松尾橋梁 桜井 怜
I-25 アルミ合金桁の横倒れ座屈に関する研究 (2 報) 大阪大学 正 工博 前田幸雄・大阪府立工専 正 ○三宮和彦・神戸製鋼所 正 梶本政良

- I-26 プレートガーダーの腹版の後座屈強度に関する理論的研究 (スライド) 京都大学 正 工博 渡 辺 英 一
- I-27 ハイブリッドプレートガーダーの曲げ耐力の実験的研究 (スライド) 大阪大学 正 工博 前田幸雄・川崎製鉄 佐野忠行・大阪大学 学 ○久保善昭・学 島山庄司・学 馬淵恵明
- I-28 プレートガーダー斜補剛腹版の座屈実験 (スライド) 関西大学 正 工博 米沢 博・正 ○三上市蔵・石川島播磨重工 正 中原 久・正 松下貞義
- I-29 4径間連続鋼鉄道橋の載荷試験報告 大阪市交通局 正 道田淳一・正 嶋 経夫・正 上根善教・正 工修 ○高崎 肇  
討 議 I-24~29  
10.30~12.00
- I-30 斜支持曲線げた橋の静的解析 大阪市立大学 学 ○中西正昭・正 工修 中井 博
- I-31 曲線橋の設計に関する二、三の考察 (スライド) 日建設計工務正 大泉 橋・正 ○鷹羽信勝
- I-32 曲線げたの有効幅に関する基礎的研究 (スライド) 大阪市立大学 ○北田俊行・正 工修 中井 博
- I-33 非平面保持の曲げを生ずる多室板構造の解法 大阪工業大学 正 岡 村 宏 一
- I-34 地下鉄箱構造の立体解析 大阪工業大学 正 岡村宏一・大阪設計コンサルタンツ 正 吉田公憲・正 工修 ○進藤泰男
- I-35 床版と立体ラーメンの完全合成構造の立体解析 (続) 大阪市立大学 正 工博 倉田宗章・大阪工業大学 正 岡村宏一・大阪市立大学 正 ○島田 功
- I-36 破壊線理論による床版の破壊荷重算定に関する一考察 大阪大学 正 工博 前田幸雄・学 工修 松井繁之・学 ○福田安宏
- I-37 重荷重用格子床版の実験的研究 (第5報) (スライド) 大阪大学 正 工博 前田幸雄・学 工修 松井繁之・神戸製鋼所 正 工修 ○飛岡博明
- I-38 Finite Strip Methodによる扇形板の曲げ座屈 (スライド) 関西大学 正 三上市蔵・正 工修 ○武田八郎・正 赤松洋一・正 工博 米沢 博  
大阪市立大学 正 工博 倉田宗章・正 ○谷平勉
- I-39 四辺形板の曲げ解析 討 議 I-24~39  
15.00~16.00
- I-40 ラティス構造材料内の応力伝播について (スライド) 京都大学 正 工博 丹羽義次・正 工修 小林昭一・学 ○横田和男
- I-41 H.T. 80 鋼の施工性 (第1報) (スライド) 松尾橋梁 正 ○ 鍊 靖司・山川貞男・高田繁一
- I-42 摩擦接合の欠陥ボルト数と耐力との関係について 神戸大学 正 工博 西 村 昭
- I-43 高力グリップボルト継手性状の経年変化について 神戸大学 正 工博 西村 昭・大阪市土木局 正 工修 ○芦見忠志・正 藤沢政夫  
討 議 I-40~43
- II. 水理学・水文学・発電水力・衛生工学・河川工学・港湾工学・海岸工学等
- 第3会場 (午前) 9.00~10.30
- II-1 砕波に関する基礎的研究 大阪大学 正 工博 樺木 亨・正 工修 岩田好一朗・学 ○中辻啓二
- II-2 砕波付近の波形変化と水粒子速度に関する実験 京都大学 正 工博 岩垣雄一・学 工修 酒井哲郎・京都府庁 正 工修 ○開沼淳一
- II-3 長波の変形に関する一考察 京都大学 正 工博 岩垣雄一・学 工修 ○酒井哲郎
- II-4 風波の発達に関する二、三の実験 京都大学 正 工博 土屋義人・学 ○吉岡 茂
- II-5 乱流境界層における質量輸送一重裏波の場合 京都大学 正 野 田 英 明
- II-6 内部波の発達に関する一考察 京都大学 正 工博 岩佐義明・正 工修 ○井上和也  
討 議 II-1~6  
10.30~12.00
- II-7 波の反射機構解析に関する実験的研究 京都大学 正 工博 長尾義三・日本テトラポッド正 ○加藤久徳
- II-8 港内波浪の静穏化に関する基礎的研究 (第1報) 大阪大学 正 工博 樺木 亨・正 工修 梁 崎 模・学 ○高畑平三
- II-9 不規則波の反射に関する実験 京都大学 正 工博 岩垣雄一・正 工修 ○村上仁士・横浜市役所 正 工修 金田孝之
- II-10 不規則波の越波に関する実験 京都大学 正 工博 岩垣雄一・正 工修 村上仁士・横浜市役所 正 工修 ○金田孝之
- II-11 護岸隅角部付近の越波に関する実験 関西大学 正 ○井上雅夫・京都大学 正 工博 土屋義人
- II-12 造波機の性能について 大阪大学 正 工博 樺木 亨・工博 ○岩田好一朗  
討 議 II-7~12  
第3会場 (午後) 14.00~15.45
- II-13 欠 番
- II-14 ブロックの摩擦係数と波高透過率との関係について 新日本技術コンサルタント 正 工博 神月隆一・正 工博 ○御 世 雄
- II-15 高知港津波模型実験による湾内津波スペクトルの特性について (スライド) 京都大学 正 工博 土屋義人・正 理修 ○中村重久
- II-16 港域水面振動の数値実験について (スライド) 大阪大学 正 工博 室田 明・学 ○油谷准介
- II-17 飛砂における砂粒の振動限界について (スライド) 京都大学 正 工博 土屋義人・学 ○河田恵昭
- II-18 潮汐振動による地下塩水楔の挙動と塩分散について (第1報) 大阪府立工高専 正 工修 佐 藤 邦 明
- II-19 浸透層よりの選択取水一障壁設置の効果について一 京都大学 正 工博 岩佐義明・学 工修 武内 等・新日本技術コンサルタント 学 ○稲津謙二  
討 議 II-13~19  
15.45~17.20
- II-20 浮遊砂の濃度変動の特性について (スライド) 京都大学 正 工修 道上正規・学 ○白川 清
- II-21 移動床水路におけるエネルギー損失 (スライド) 京都大学 正 工修 ○奈良井修二・戸田建設 正 福島信夫
- II-22 電気接点式河床測定器について 京都大学 正 田 中 祐 一 朗
- II-23 破壊危険度の評価について (スライド) 京都大学 正 工博 石原安雄・工 工修 瀬能邦雄・鹿島建設 工 工修 ○上野慎治
- II-24 水室型調圧水槽における下部水室の設計に関する一考察 新日本技術コンサルタント 正 工博 神月隆一・正 工修 千秋賀弘・正 工修 ○渡辺泰清・正 工修 片山統雄
- II-25 淀川水系の水利権の実態とその改善策について 京都大学 正 工博 石原藤次郎・通産省 正 工修 ○佐々木宣彦・京都大学 正 工修 田中雄作
- II-26 河川改修計画への経済分析法の導入について 京都大学工学部 正 工博 石原藤次郎・鴻池組 正 工修 ○田坂隆一郎  
討 議 II-20~26  
第4会場 (午前) 9.00~10.30
- II-27 河床の長期変動に関するシミュレーション 大阪大学 正 工博 室田 明・正 工博 ○端野道夫
- II-28 月流量のシミュレーションについて 大阪大学 正 工博 室田 明・学 工修 ○江藤剛治
- II-29 遊水調節池系の応答特性に関する二、三の考察 京都大学 正 工博 岩佐義明・学 工修 ○常松芳昭

- II-30 貯水池操作を対象とした半旬流量変動特性の解析 大阪大学 正 工博 室田 明・正 神田 徹・学 ○白井信雄
- II-31 河道網系における洪水ピークの多次元理論 京都大学 正 工修 高棟琢馬・建設省 正 工修 ○斎藤雄三郎
- II-32 河域の都市化による流出形態の変化 京都大学 正 工修 高棟琢馬・学 工修 池淵周一・名古屋市 正 ○柴田正治  
討 議 II-27~32  
10.30~12.00
- II-33 開水路流れの乱れ特性について—Froude 数の効果— 京都大学 正 工博 岩佐義明・水資源開発公団 正 工修 ○鷲見栄一
- II-34 開水路流れにおける乱れの相似性について 京都大学 正 工修 今 本 博 健
- II-35 京都疏水における乱れ計測について 京都大学 正 工修 今本博健・正 工修 ○上野鉄男
- II-36 欠 番
- II-37 傾斜密度噴流に関する基礎的研究 大阪大学 正 工博 村岡浩爾・学 ○芳田利春・学 赤井新也
- II-38 混相流における粒子特性の効果について 京都大学 正 工博 岩佐義明・建設省 正 工修 ○吉岡和徳  
討 議 II-33~38  
第4会場 (午後) 14.00~15.30
- II-39 潮沼の流動モデルに関する一考察 京都大学 正 工博 合田 健・学 ○渡辺 正孝
- II-40 下水管網の計画について 神戸大学 学 ○道下 雅之・正 清水 進
- II-41 活性汚泥法処理における負荷変動に対する挙動について (スライド) 京都大学 正 工博 宗宮 功・○中野弘吉・河村正純・津野 洋
- II-42 泥水材料の実験研究 (スライド) 鴻池組 工藤光威・加藤克己・新田喜宣・正 工修 ○南川洋士雄
- II-43 浮上法による産業廃水処理に関する研究—クロム酸イオンの除去— (スライド) 京都大学 正 工博 ○古屋仲芳男・正 工博 筒井天寿  
討 議 II-33~43  
15.30~16.30
- II-44 下水汚泥の海洋環境に関する1試算 (スライド) 京都大学 正 Ph.D 井 上 頼 輝
- II-45 大気汚染物の拡散式に関する一考察 (スライド) 京都大学 正 医博 山本 剛夫・正 工修 ○西田 薫
- II-46 大気環境基準について (その2) (スライド) 関西大学 正 医博 庄司 光・京都大学原子炉実験所 正 工修 ○塚谷恒雄
- II-47 市街地における騒音の伝播 (スライド) 京都大学 正 医博 山本剛夫・正 工博 高木興一・学 工修 ○橋本和乎・学 厚井弘志
- III. 土質力学・基礎工学・岩盤力学等
- 第5会場 (午前) 9.00~10.30
- III-1 粘土の流動特性に関する実験 大阪大学 正 松井 保・神戸市 正 工修 ○古後 健一
- III-2 粘土の一軸クリープ強度について 京都大学 正 工修 栗 原 則 夫
- III-3 乱さない粘性土の一軸圧縮強度のばらつきについて 神戸大学 正 工修 ○軽部 大蔵・学 井上 宏
- III-4 変形条件が圧密諸係数におよぼす影響について 近畿大学 正 ○中野 担・正 鈴木正治・中国ボーリング 正 角 恒幸
- III-5 線形粘弾性体内の応力波伝播について 京都大学 正 工博 赤井 浩一・学 ○堀 正幸  
討 議 III-1~5  
10.30~12.00
- III-6 マサ土の土粒子特性とセシ断強度について 関西大学 正 理修 西田 一彦・正 ○香川 満
- III-7 真砂土の破砕性について 明石高専 正 工修 福 本 武 明
- III-8 マサ土粒子の強度と破砕性について 京都大学 正 工博 松尾新一郎・正 工修 ○沢 孝平
- III-9 電子顕微鏡によるマサ—石灰処理土の構造的な研究 (スライド) 京都大学 正 工博 松尾新一郎・学 工修 ○宋 永 焜
- III-10 浸透水と地盤安定の考察 京都大学 正 工博 松尾新一郎・正 工修 河野伊一郎・学 ○久保田英之
- III-11 被圧地下水圧変動の地盤沈下に及ぼす影響 (スライド) 京都大学 正 工博 村山朗郎・正 工修 八木則男・学 ○森誠一郎  
討 議 III-1~11  
14.00~15.30
- III-12 基礎周辺地盤の力学的特性—地盤の引張応力を厳密に考慮した場合— (スライド) 日本道路公団 正 多田浩彦・正 工修 ○山根哲雄・大阪設計コンサルタンツ 正 工修 大山 峰  
立命館大学 正 工修 勝見 雅・学 ○神野 広巳
- III-13 軸対称としての浅い基礎の支持力について (スライド) 神戸大学 正 工修 ○北村 泰寿・正 Ph.D 桜井 春輔
- III-14 長方形基礎底面の接触圧分布 京都大学 正 工修 吉 原 進
- III-15 構造物基礎模型に働く砂層の復元力について (スライド) 京都大学 正 工博 赤井浩一・熊谷組 正 工修 ○木内 勉
- III-16 路床路盤構造体内の応力分布に関する模型実験 (続) 京都大学 正 工博 柴田 徹・正 工博 土岐憲三・清水建設 正 工修 ○山本誠一
- III-17 不均質性地盤における波動伝播速度の測定 京都大学 正 工博 柴田 徹・正 工博 土岐憲三・清水建設 正 工修 ○山本誠一  
討 議 III-12~17  
13.30~17.00
- III-18 岩質材料の引張強度に及ぼす結晶粒径の影響について (スライド) 京都大学 正 工博 丹羽義次・正 工修 小林昭一・学 ○福井卓雄
- III-19 圧縮供試体の応力分布に及ぼすカップセル・ストレスの影響について (スライド) 京都大学 正 工博 丹羽義次・正 工修 小林昭一・学 ○森竹 淳
- III-20 異方性弾性地山内の水平坑道周辺の重力による応力状態 (スライド) 京都大学 正 工博 丹羽 義次・正 工修 ○平島 健一
- III-21 異方性岩の破壊規準について (スライド) 京都大学 正 工修 小 林 昭 一
- III-22 トンネル掘削中の切羽前方の断層破砕帯の予知法について (スライド) 奥村組 正 林 一隆・正 ○小林義美・正 北角 哲  
討 議 III-18~22  
第6会場 (午前) 9.00~10.30
- III-23 砂層中の土圧変化に関する考察 大阪大学 正 工修 ○藤井清司・佐藤工業 正 工修 松島 功雄
- III-24 粒状土の応力比 $\sim$ ヒズミ $\sim$ ダイレクタンシー関係に関する微視的考察 (スライド) 京都大学 正 工博 村山朗郎・学 工修 ○松岡 元・国鉄 正 坂東 弘・前田建設 正 前田憲一
- III-25 粒状体のヒステリシスループに関する'2, 3の考察 京都大学 正 工博 村山朗郎・学 工修 松岡 元・正 ○坂東 弘
- III-26 粒状集合体内の応力状態について (スライド) 京都大学 正 工博 丹羽義次・正 工修 小林昭一・建設省 正 工修 ○川見豊武
- III-27 土の供試体面に生ずるヒズミ量 大阪市立大学 学 ○小田恵之輔・学 篠木 義博  
討 議 III-18~27  
10.30~12.00
- III-28 飽和砂層の液状化機構について 京都大学 正 工修 尾島 勝・建設省 正 工修 ○古賀泰之
- III-29 振動をうける飽和砂の透水性 (その3) 京都大学 正 工修 黒田勝彦・白石基礎工事 正 ○阿久津英智

- Ⅲ-30 繰り返し応力下における砂の応力-変形挙動について (スライド) 京都大学 正 工博 村山朗郎・正 工修 八木則男・学 ○小川雅裕
- Ⅲ-31 繰返し載荷をうける飽和砂の挙動について 神戸大学 正 工博 谷本喜一・学 植村隆晴・学 ○菅 好徳
- Ⅲ-32 路盤材としての鉱さいの動的性質について 神戸大学 正 M.S. 西 勝・学 ○石井陽一・日建設計工務 正 工修 瀧 勝宏
- Ⅲ-33 土の室内動的試験 大阪市立大学 正 ○西垣 好彦・学 北浦 善昭  
討 議 Ⅲ-28~33  
第6会場 (午後) 14.00~15.30
- Ⅲ-34 模型くい打撃時の応力波と貫入に関する一考察 (スライド) 立命館大学 学 ○尼崎省二・正 工博 明石外世樹・正 工修 竹内正喜
- Ⅲ-35 円錐角度を異にするくいのかい周辺土質応力について 名城大学 正 柴 田 道 生
- Ⅲ-36 水平載荷試験による形状寸法の影響 大阪市立大学 学 工修 ○柳 大夏・川崎ボーリング 正 三木幸蔵
- Ⅲ-37 内張鉄管の長期現場測定に関する一考察 新日本技術コンサルタント 正 工博 神月隆一・正 谷河正也・正 工修 ○白井義朗
- Ⅲ-38 ベント掘削機の稼働状況について 阪神高速道路公団 村田 為剛・正 工修 ○石塚 幹剛
- Ⅲ-39 杭に対する横方向地盤係数についての考察 兵庫県 正 工修 ○前田昌俊・神戸大学 正 Ph.D 桜井春輔  
討 議 Ⅲ-34~39  
15.30~17.00
- Ⅲ-40 堆積土砂による金属材料の摩耗特性について 京都大学 正 工博 昌昭治郎・福井大学 正 工修 ○室 達朗・藤田組 正 栗山 保
- Ⅲ-41 土工板の形状に関する基礎的研究 京都大学 正 工博 昌 昭治郎・国鉄 正 工修 ○安岡 伸之
- Ⅲ-42 比抵抗法による地盤注入範囲の検出に関する若干の考察 (スライド) 立命館大学 正 工博 島山 直隆・学 ○篠田 和祐
- Ⅲ-43 圧気掘さくによる砂れき層の発熱について (スライド) 大阪市交通局 正 ○道田淳一・正 春名富生・正 大槻和也・佐藤工業 正 竹内 修・間組 正 津久井真一
- Ⅲ-44 圧気トレンテ工法を用いた地下駅仮設施工時の振動性状の変化について (スライド) 大阪市交通局 正 道田淳一・正 ○川口大仁・白石基礎 正 池田芳郎
- Ⅲ-45 地表面における地下鉄の振動測定について (スライド) 大阪市交通局 正 大浦 武・正 ○嶋 経夫・正 工修 高崎 肇・正 野村健三  
討 議 Ⅲ-40~45

IV. 道路工学・鉄道工学・交通計画・都市計画・国土計画・測量等

- 第7会場 (午前) 9.00~10.30
- IV-1 道路網の容量解析について 大阪市立大学 正 工修 西 村 昂
- IV-2 信号の制御パラメーターと交通損失について 京都大学 正 工修 奥谷 巖・住友重機工業 正 ○伊沢 朗
- IV-3 制御の継続時間と制御パターン変更について 京都大学 正 工博 米谷 栄二・正 工修 ○奥谷 巖
- IV-4 輸送手段の分担率推定に関する行動科学的一考察 京都大学 正 工 俣 昇
- IV-5 自家用乗用車の保有・利用形態について 京都大学 正 工博 天野 光三・正 工修 ○青山 吉隆
- IV-6 バスの運行挙動に関するシミュレーションからの考察 京都大学 正 工修 ○高岸 節夫・正 戸松 稔  
討 議 IV-1~6  
10.30~12.00
- IV-7 交通事故発生シミュレーションモデルについて (1) 大阪市立大学 正 工博 三瀬 貞・大阪市土局 正 ○村井哲夫
- IV-8 居住地選択における通勤時間の評価について 京都大学 正 工修 青山 吉隆・正 ○戸松 稔
- IV-9 急行停車駅の最適配置に関する研究 京都大学 正 工博 天野光三・建設省 正 工修 ○安井常二
- IV-10 空港計画のためのシステムのモデルについて 京都大学 正 工博 吉川和広・正 木俣 昇・学 ○野村康彦
- IV-11 Pert-Manpower の最適解法について 京都大学 正 工博 吉川 和広・学 工修 ○春名 攻
- IV-12 費用-便益分析による、けい岸施設計画に関する一考察 京都大学 正 工博 長尾義三・正 森杉寿芳・学 ○永野光三  
討 議 IV-7~12  
第7会場 (午後) 14.00~15.30
- IV-13 工事施工区域と交通制御について 奥村組 正 西 山 和
- IV-14 施工計画作成プロセスに関する一考察 京都大学 正 工博 吉川和広・学 工修 春名 攻・学 ○笹島 博
- IV-15 コンピューターによる最適運土計画について 奥村組 正 河 原 知 良 弘
- IV-16 地形計測要素と路線選定との関連について (スライド) 京都大学 正 工博 森 忠次・学 ○高尾善昭・鴻池組 正 黒川 弘
- IV-17 写真・地図濃度を利用した道路密度測定 (スライド) 京都大学 正 星 仰
- IV-18 水平角観測精度に及ぼす風力の影響 福井工業大学 正 長 浜 友 治  
討 議

V. 土木材料・土木施工学・コンクリートおよび鉄筋コンクリート工学等

- 第8会場 (午前) 9.00~10.30
- V-1 有機質混和剤を使用したモルタルの性質 (スライド) 近畿大学 正 水野俊一・正 玉井元治・正 ○前広義晴
- V-2 新旧コンクリートの樹脂接着について (スライド) 名鉄 正 吉野 大・京都大学 学 工修 ○矢村 潔
- V-3 アルミナセメントコンクリートの初期性状について (スライド) 近畿大学 正 工博 水野俊一・正 工修 ○玉井元治・正 山越 克
- V-4 各種カラー舗装材料の比較試験について 大阪市立大学 正 工博 三瀬 貞・正 工修 ○山田 優・正 近藤邦彦・学 森光良太
- V-5 オートクレープ養生による人工軽量骨材コンクリートに関する一実験 (スライド) 愛知工業大学 正 工博 久保直志・大阪市立大学 正 工修 ○佐伯康二・近鉄 正 松村秀一・大阪市 正 水谷晶弘
- V-6 三軸圧縮荷重下のコンクリートの破壊過程に関する二、三の考察 (スライド) 京都大学 正 工博 丹羽義次・正 工修 小林昭一・正 工修 小柳 治・学 工修 ○中川浩二  
討 議 V-1~6  
10.30~12.00
- V-7 コンクリートの衝撃疲労について (スライド) 立命館大学 学 ○桂木正雄・正 工修 竹内正喜・正 工博 明石外世樹
- V-8 PCはりの曲げねじり耐力について (スライド) 国鉄 正 工修 ○白井幸彦・京都大学 正 工修 吉岡保彦・正 工博 岡田 清
- V-9 RCディープビームの力学的挙動について (スライド) 日本道路公団 正 工修 ○平井正樹・京都大学 正 工修 児島孝之
- V-10 周囲に鉄筋を有するコンクリート長方形断面が対称軸外に偏心荷重を受ける場合の断面応力計算法 (第2報) 大阪産業大学 正 武 田 英 吉
- V-11 RCスラブの押抜きせん断耐力について (スライド) 宇都宮産 正 工修 ○米田俊一・京都大学 学 工修 平沢征夫  
討 議 V-7~11



第8会場 (午後) 14.00~15.30

- V-12 PCタンクの温度応力について (スライド) 神戸大学 正 工修 藤井 学・正 工修 ○梶村 雄佑  
 V-13 コンクリート管の打撃応力について (スライド) 京都大学 正 工博 岡田 清・大阪府立工業高専 正 ○久良喜代彦・京都大学 学 工修 見島孝之  
 V-14 黒部ダムの挙動測定について 関西電力 正 横田 潤・正 ○千田 実・正 丹羽武彦  
 V-15 船足場の動揺性状 (スライド) 日本道路公団 正 多田浩彦・正 工修 ○越村一雄・日立造船 正 大島光義  
 V-16 シールドテール部スキンプレートの設計方法について (その2) 熊谷組 正 工修 藤 本 徹  
 討 議 V-12~16  
 15.30~16.30  
 V-17 連続土留壁の本体利用のための合成補強に関する実験について 大阪市交通局 正 大浦 武・正 工修 川口大仁・正 ○表 友宏  
 V-18 ゴムの弾性を利用したシールドセグメント間の止水工法について 大阪市交通局 正 大浦 武・正 工修 川口大仁・正 ○葛野恒夫  
 V-19 沈埋函継手部止水の方法について (スライド) 大阪市交通局 正 道田淳一・正 津高正高・正 ○大場常男・奥村組 正 柴森計一郎  
 V-20 地下鉄掘削に接近する高層建物の沈下防止方法について (スライド) 大阪市交通局 正 道田淳一・正 工修 川口大仁・正 ○木村 薫  
 討 議 V-17~20

4. 講演概要頒布: 論文抄録集 (B5版, オフセット印刷) をつぎのとおり頒布いたします (ただし 800部限り, 申込先着順)。  
 正会員 200円, 学生会員 100円, 非会員 500円, 送料 100円, 講演者 (○印) 無料

5. 聴 講: 無料, 来聴歓迎

6. 申込方法: 講演概要希望者は 4月18日 (土) までに勤務先, 連絡先, 会員の種別, 氏名および講演会に出欠を明記 (様式随意) し, 上記講演概要代金および送料 (当日会場で受取り希望者は送料不要) を添えて 土木学会関西支部へお申し込み下さい。

## (2) 関西支部第43回通常総会

◀ 5月20日 (水) ▶

1. 日 時: 1970年5月20日 (水) 15.00~17.30

2. 場 所: 好文倶楽部集會室 電話大阪 (06) 361-1261 大阪市北区梅田2 第一生命ビル 12階 国鉄大阪駅前

3. 総 会: 15.00~15.30 1. 諸報告, 2. 新役員紹介, 3. 現, 新支部長挨拶

4. 講 演:

15.30~16.30 ① 揚 水 発 電 関西電力 (株) 常務取締役 工博 野 瀬 正 儀

16.30~17.30 ② 大阪港における港湾の将来構想 第三港湾建設局長 塘 恒 夫

5. 懇 親 会: 講演終了後懇親会を催します (12階会議室, 開会 17時30分よりの予定) 参加費 500円

6. 申込方法: 総会・講演参加希望者は参加予定人員をハガキまたは電話にて, 懇親会参加希望者は勤務先, 連絡先および氏名を明記 (様式随意) のうえ参加費 500円を添えて 5月6日 (水) までに土木学会関西支部へお申し込み下さい。懇親会参加証をお送りします。

(付) テキスト頒価改正について (お知らせ)

昭和45年度より関西支部テキスト頒価を次のとおり改正いたしました。ご了承願います。

|   |           |               |
|---|-----------|---------------|
| 土木工事における土中水の扱い方                                 | 頒価 1500円  | 送料 80円        |
| 工程管理 (演習問題解答付)                                  | " 1500円   | " 100円        |
| 工事の安全対策   | " 1000円   | " 80円         |
| 近畿開発と大型土木プロジェクト                                 | " 600円    | " 60円         |
| 公害振動測定法 (案)                                     | " 無 料     | " 35円         |
| 騒音・振動公害   | " 1500円   | " 100円        |
| シールド工法研究会資料 (地下鉄シールドの問題点<br>シールド工事施工上の問題点の2点1組) | " 150円    | " 55円         |
| 写真測量とその応用                                       | " 1200円   | " 80円         |
| 土木工学における動的現象の計測とデータ処理                           | " 1000円   | " 80円         |
| 水理学・水文学における最近の進歩                                | " 1500円   | " 100円        |
| プレストレスト コンクリート最近の進歩                             | " 1200円   | " 80円         |
| 土木構造物の振動と安全性                                    | " 1500円   | " 80円         |
| 関西の土木 100年                                      | 特別頒価 700円 | " 100円 (残部僅少) |

上記テキストご希望の方は頒価に送料を添えて土木学会関西支部へお申し込み下さい。

中国四国支部行事案内 (郵便番号 730 広島市基町10番3号 (自治会館内))  
土木学会中国四国支部事務局 電話 0822-21-2666

(1) 昭和45年度中国四国支部年次総会・特別講演会および学術講演会

1. 日 時：1970年7月下旬(見学会を含めて3日間の予定)

2. 場 所：鳥取市

プログラム、講演概要の頒価およびその他の事項については学会誌6月号に搭載の予定です。講演希望の方は、つぎの講演申込要領によりお申込みください。

年次学術講演申込要領

- ① 講演申込方法：講演希望者は部門、題目(200字以内の概要を含む)、スライドの有無、勤務先、会員種別、学位、氏名(連名の時は講演者に○印をつける)、連絡先を明記のうえ5月9日(土)まで土木学会中国四国支部事務局へ必着するように提出してください。
- ② 講演内容：講演は未発表のもので1人1題にかぎります。
- ③ 講演時間：1題につき15分の予定です。
- ④ 講演部門：つぎの4部門ですが、都合により講演者の了承を得たうえで部門を変更させていただくことがあります。
  - 第1部門：応用力学・構造力学・橋梁等
  - 第2部門：水理学・水文学・河川・港湾・海岸工学・発電水力・衛生工学等
  - 第3部門：土質力学・基礎工学・土木機械・施工等
  - 第4部門：鉄道・トンネル・道路・コンクリートおよび鉄筋コンクリート・土木材料・都市計画・交通・測量等
- ⑤ 原稿提出要領：講演申込者はつぎの要領で講演概要の原稿を提出してください。
  1. 講演概要は、講演者の原稿をそのまま縮写してオフセット印刷としますから、必ず所定の用紙をご使用ください。
  2. 用紙は執筆要領(原稿の書きかた)とともに講演申込者に中国四国事務局からお送りいたします。
  3. 原稿は6月13日(土)(期限厳守)までに中国四国事務局へ必着するようお送りください。
  4. 原稿の長さは、1題につき2ページまたは4ページ(図表写真を含め1ページ1620字詰)を原則とします。超過する場合は2ページまで1ページにつき2000円の製版料を申し受けます。また別刷の場合は別に印刷料を負担ねがいます。
- ⑥ 講演概要：講演者(○印)には無料一般は有料

(2) 「マサ土の工学的性質とその取扱い指針」講習会 ◀4月22日(水)~23日(木)▶

共 催：土質工学会マサ土研究委員会・土質工学会中国支部・土質工学会四国支部・土木学会中国四国支部

1. 期 日：講習会；1970年4月22日(水) 9.00~16.30

見学会；1970年4月23日(木) 9.30~13.00 (西広島バイパス建設工事)

2. 会 場：広島平和記念館講堂(広島市中島町1-2・TEL(0822)41-5246)

3. 題目と講師：

4月22日

|             |                        |               |       |
|-------------|------------------------|---------------|-------|
| 9.00~9.05   | あいさつ                   | 土質工学会マサ土研究委員長 | 松尾新一郎 |
| 9.10~10.30  | マサ土の基本的性質と試験法について      | 関西大学助教授       | 西田一彦  |
| 10.35~12.00 | マサ土の強度特性とマサ土の斜面の安定について | 広島大学教授        | 網千寿夫  |
| 13.00~14.25 | マサ土の安定処理について           | 京都大学教授        | 松尾新一郎 |
| 14.30~15.25 | 路床・路盤材としてのマサ土の特性について   | 大成道路研究所長      | 星野出雲  |
| 15.30~16.25 | マサ土の掘削と盛土について          | 神戸市開発局        | 中井喜一郎 |
| 16.25~16.30 | あいさつ                   | 土質工学会中国支部長    | 田辺義亮  |

4月23日

9.30 県庁前バス乗車~10.20~12.00 西広島バイパス工事見学~12.00 現地出発~13.00 広島駅前着 解散

4. テキスト：マサ土の工学的性質とその取扱い指針マサ土に関する文献抄録集(A5判190ページ)定価1500円

5. 聴講料：2000円(ただしテキスト代を含む)

6. 定 員：300名

7. 申込み方法：参加希望者は、勤務先、連絡先、氏名を明記のうえ、聴講料をそえて4月11日(土)までにお申込み下さい。

8. 申込み先：土質工学会中国支部事務局；広島市基町10-52 県庁港湾課 〒730, TEL(0822)28-2111 内線296

## 土木図書館講堂使用料の改正について

土木図書館講堂は昭和 39 年公開以来関係方面のご使用を願っておりますが、今回諸般の状況から、本年 4 月 1 日より使用料を下記のとおり改正することになりましたのでお知らせいたします。

改正使用料は室の使用料をおおよそ 30% 値上げし、これに冷暖房、マイクの使用料を含めたものです。

土木図書館講堂使用料改正

| 曜 日   | 平 日            |                 |                 |                | 土 曜 日            |                 |                 |                | 日 曜 日・祝 日        |                 |                 |                |                  |
|-------|----------------|-----------------|-----------------|----------------|------------------|-----------------|-----------------|----------------|------------------|-----------------|-----------------|----------------|------------------|
|       | 午前             | 午後              | 夜間              | 全日             | 午前               | 午後              | 夜間              | 全日             | 午前               | 午後              | 夜間              | 全日             |                  |
| 使 用 者 | 9.30~<br>12.30 | 13.00~<br>16.30 | 17.00~<br>20.00 | 9.30~<br>20.00 | 9.30~<br>12.30   | 13.00~<br>16.30 | 17.00~<br>20.00 | 9.30~<br>20.00 | 9.00~<br>12.30   | 13.00~<br>16.30 | 17.00~<br>20.00 | 9.30~<br>20.00 |                  |
| 一 般   | 現改             | 3,500<br>6,200  | 4,500<br>7,500  | 5,000<br>8,100 | 10,000<br>17,000 | 3,500<br>6,200  | 5,000<br>8,100  | 3,500<br>8,800 | 12,000<br>20,000 | 4,500<br>7,500  | 5,000<br>8,100  | 5,500<br>8,800 | 13,000<br>21,200 |
| 関係団体  | 現改             | 2,400<br>4,700  | 3,000<br>5,500  | 3,500<br>6,000 | 7,000<br>12,000  | 2,400<br>4,700  | 3,500<br>6,000  | 3,800<br>6,500 | 8,500<br>15,000  | 3,000<br>5,500  | 3,500<br>6,000  | 3,800<br>6,500 | 9,000<br>15,700  |

土木振動学便覧編集小委員会編

### 土木技術者のための 振 動 便 覧

A 5・450 2400円 会員特価 2000円 (〒110)

基礎、応用の 2 編に分け、13 章に分類した土木に関係するあらゆる振動問題を取上げた便覧。付録として耐震規定、耐風設計規定などを付す。機械、建築など他分野からも評価が高い。研究者、設計者、実務者むき。

測定法編集小委員会編

### 建設技術者のための 測 定 法

A 5・422 2000円 会員特価 1800円 (〒100)

土木学会誌に講座として連載されていたものを大幅に加筆、項目追加を行ったユニークな測定に関する便覧。建築、気象関係者などから注目を集む。9章に分け詳述す。大学教科書、設計者、研究者、実務者むき。

岩盤力学委員会編集小委員会編

絶版近し

土木技術者のための

B 5・490 3600円 会員特価 3000円 (〒130)

土质地質学、岩石の力学的性質、岩盤試験、強度・変形に対する理論的あるいは模型実験的解析法、透水の影響、斜面安定、掘削などの解説のほか工事例を多数収録す。研究者、設計者、実務者むきの岩盤研究への指針。

## 1970年改訂版 土木製図基準

〈付・製図のかき方〉

A 4・160 色刷 4 折込

付図 20 枚 上製豪華本

定価 1400円 会員特価 1200円

(〒130)

第1編 総則 第2編 鋼構造物 第3編 コンクリート構造物 第4編 測量その他・条文および解説つき

付録・製図のかき方/製図に係る規格/参考文献/添付図面・橋梁(一般図・プレートガーダー・合成桁・トラス・ラーメン・箱桁・T桁・橋脚・橋台・PC橋) 鉄道・道路・河川・ダム・下水道などの計画図

〒160 新宿区四谷1丁目

土木学会 電話 03(351)4131  
振替東京 16828番

## 国際会議 ニュース

### (1) The Ocean World—Joint Oceanographic Assembly

期 日：1970年9月14日～25日

開催地：東京経団連会館

論文提出方法：TitleとAbstractを下記に提出のこと。

Titleは1970年4月までに。

東京都文京区本郷7丁目

東京大学地球物理学教室内

日本準備委員会

参加費：20ドル

### (2) 国際かんがい排水委員会 (ICID) 総会に係る論文募集

ICID 国内委員会は1972年ブルガリヤ国ヴァルナ市において開催される第8回総会に係る論文をつぎの要領で募集しております。

テーマ：

- Field irrigation and drainage in deltaic, coastal and lowlying areas
- Recent and promising developments including mechanization of operations in the field of irrigation and drainage
- Factors affecting river training; and flood plain regulation (including flood zoning)

論文提出方法：約1600字の論文要約を1970年6月30日までに提出。ICID 国内委員会で内容審査する。採用論文については1970年9月30日までに提出。

連絡先：農林省農地局計画部技術課 ICID 日本国内委員会 電話(501)3748 または建設省河川局河川計画課 電話(580)2889。

### (3) IRF(International Road Federation) による The VI World Highway Conference

開催地：Montreal, Canada

開催期日：1970年10月4～10日

連絡先：Executive Secretary

VI World Highway Conference

Place Bonaventure (Suite 20 Elgin)

Montréal 114, Québec, Canada

会議用語：英語、仏語、独語、スペイン語

すべての論文は、そのまま、上記4カ国語のabstractをつけて出版される。

なお、会議の前後に特別見学旅行を予定しています。

### (4) The Second World Congress of Engineers and Architects in Israel

上記の国際会議がイスラエルのTel Avivで開催されます。

期 日：1970年12月14～18日

テーマ：“Dialogue in Development-Integration of Interdisciplinary Planning and its Implementation in Development Work”

1. Dialogue
2. Integration
3. Modern Development Practice

会議用語：英語、仏語、スペイン語、ヘブライ語

費用：I.T.C.C. および Association of Engineers and Architects in Israel の会員 \$ 60.00  
非会員 \$ 70.00  
同伴者 \$ 40.00

連絡先：Congress Secretariat

2nd World Congress of Engineers and Architects in Israel

200 Dizengoff St., P.O.B. 3082

Tel Aviv, Israel

### (5) 2nd Conference on Lightweight Structures

標記の国際会議が Scientific Society of Mechanical Engineers Scientific Society for Building および Hungarian Mining and Metallurgical の主催で行なわれます。

期 日：1970年8月3～4日

開催地：Székesfehérvai, Hungary

- テーマ：1. Theory, constructional and technological principles of lightweight structures  
2. Operation of lightweight structures, and the experiences of users  
3. The economy of lightweight structures

上記のテーマについて講演と討議が行なわれます。論文の申込みは、すでに締切りとなりましたが、参加は受け付けていますので、希望者は、5月1日までに申し込んで下さい。

申込先：Scientific Society of Mechanical Engineers

Budapest, V., Szabadságter 17, Hungary

会議用語：ドイツ語，英語（ロシア語）

参加費：参加者 40.00 ドル

同行者 10.00 ドル

## (6) International Symposium on Digital Computer Applications in Engineering

標記のシンポジウムが開催されることになり，論文と参加者を募集しております。

期日：1970年10月14～17日

場所：トルコ，イスタンブール工業大会議室

テーマ：○ Structure of the computer programs

○ General purpose computer programs and program systems

○ Related algorithms

○ Preliminary work dealing with the conversion of a problem feasible for the computer solution

コンピューターに関する問題点に重点

論文提出方法：abstract (500 words 以内) を2部4月1日までに提出。

本論文は，長さに制限はないが，発表時間は15～30分となる。

5月15日までに提出。abstract 論文とも英語。

会議用語：トルコ語，英語

参加申込締切日：1970年6月1日

連絡先：Mr. F.A. Akyüz, Secretary I.T.Ü. Hesap Merkezi (Computer Center) Taşkişla 114, Istanbul, Turkey

## (7) Centenary Conference on Port & Harbour Management

Commissioners for the Port of Calcutta の100年祭事業の一つとして，標記の国際会議が開催されます。

開催地：Lecture Theatre of the Institute of Port Management, Calcutta, India

開催期間：1970年10月19～21日

テーマ：1. Port Resources, Development, Effect on Economy

2. Changes in Methods of Cargo Handling

3. Marine, Navigational and Engineering Features for large draft vessels

4. Recent Development in Ports and Harbours Facilities

5. Inland Water Transport

## 6. Development and Maintenance of Navigable Channels in Estuaries and Coastal Areas

論文：上記のテーマに関し未発表の論文を募集しています。希望者は，3月15日までに200 words 以内の abstract を提出してください。本論文は，4000 words 内で，5月15日が期限です。

会議用語：英語のみ

予備登録：1970年8月15日まで

問合せ先：Organising Secretary I.P.M., 20 Garden Reach Road, Calcutta-43 India

## ◎水質汚濁研究会 (JWPR) および国際水質汚濁研究会 (IAWPR) 会員募集

隔年ごとに開催されております国際水質汚濁研究会議は，1964年東京大会以来ますます盛況になり，1965年IAWPRが設立され，わが国へも正会員としての加盟方要請が再三ありました。

しかしながら，わが国にはまだ水質汚濁に関する学会がないため加盟が遅れており，せっかく優秀な研究実績をもちながら，それが国際的に十分理解されていない等，何かと不利益な点が少なくありません。今回，IAWPRに加盟することの目安がつき，目下諸手続を進めておりますが，今後水質汚濁に関する研究を活発化するためには，IAWPRの日本国内委員会の性格をもつ水質汚濁研究会を設け，この分野に興味をもたれる方々の積極的なご参加を得て，国際間の交流を強化する必要が痛感されますので多数の方々の水質汚濁研究会にご加入下さいますようご案内申し上げます。

1. 業務：① IAWPR 理事の選出，② JWPR 国内運営委員の選出，③ 国際水質汚濁研究会議へ提出する論文の選択，④ 国際技術交流の促進および情報活動，⑤ 国際水質汚濁研究会議出席へのあっせん，⑥ その他

2. 特典：① IAWPR 機関誌 (Water Research) の入手，② 国際水質汚濁研究会議出席への便宜，③ 国際諸情報の入手，④ JWPR 会員名簿の入手，⑤ その他

3. 年間会費：

① 正会員 500米ドル (日本下水道協会が加盟負担)

② 準会員 50000円 (日本下水道協会へ払い込み)

③ 個人会員 8000円 (同上)

注) 準会員費 100米ドル，個人会費 20米ドル相当分は IAWPR 会費にまた残額は事務雑費に充当の予定。

4. 加入申込先：

(〒102) 東京都千代田区平河町2の6 (麴町会館)

社団法人 日本下水道協会内

水質汚濁研究会設立準備会

水質汚濁研究会設立準備会

代表 東京都立大学 左合正雄教授